

筆写の先に合格はある！

坂井 大之 さん FAR : 1回目、BEC : 3回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

1

やってみて分かるUSCPA試験の面白さ

足立 正和 さん FAR : 3回目、BEC : 4回目
REG : 3回目、AUD : 3回目

2

遠回りをしたものの、最初の合格で手応えを得、合格する勉強法に気づきました。

山本 麻里子 さん FAR : 2回目、BEC : 3回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

3

TACを信じる。自分を追い込む。合格した自分を想像する。

T.S さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

4

Beckerを解くことが合格への最短ルート

高島 憲一 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

5

AUD 3回不合格・現行試験制度での実質ラスト受験・科目合格期限切れ直前からの合格へ

S.O さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 3回目、AUD : 4回目

6

Becker 3回転と勉強仲間との交流で4年間、19回の本試験で最終決着

Y.S さん FAR : 6回目、BEC : 3回目
REG : 5回目、AUD : 5回目

7

働きながら効率よく合格

浪江 信之介 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 2回目、AUD : 3回目

8

最後は執念で合格

野口 洋平 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 6回目、AUD : 7回目

9

モチベーションの継続が鍵！

T.T さん FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 4回目、AUD : 1回目

10

U.S.CPA合格体験記

渡辺 健太 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

11

限られた時間で効率よく勉強すること、最後まであきらめないことが大事

金 智潤 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

12

スマホで短期合格

H.Y さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

13

U.S.CPA誕生

A.A さん FAR : 3回目、BEC : 5回目
REG : 2回目、AUD : 3回目

14

「戦略的に試験に臨もう！」

T.M さん FAR : 2回目、BEC : 2回目
REG : 2回目、AUD : 5回目

15

インプットに自信がなくても、意外に解ける本試験問題

楓 元宏 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 2回目、AUD : 2回目

16

人生は1回。貴重な体験を。

吉田 正夫 さん FAR : 4回目、BEC : 1回目
REG : 2回目、AUD : 4回目

17

FARの合格が鍵

樋口 昌秀 さん FAR : 2回目、BEC : 1回目
REG : 2回目、AUD : 1回目

18

万全な準備で一発合格

永井 公隆 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

19

転職に有利と考え、短期集中合格でのUSCPA取得を決意。

S.N さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

20

人生で一番勉強をした1年間でした。

高橋 宏希 さん FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 2回目、AUD : 2回目

21

「着実な理解」が合格への近道！

E.O さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

22

遅かインドの地でUSCPA合格

三宅 志英 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

23

会計力+英語力で一歩先の経理マンに！

加藤 卓 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

24

会計初学者、子育てしながらなんとか合格

D.K さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

25

会計・語学・ITの3種の神器が学べます

鈴木 聖久 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

26



筆写の先に合格はある！

坂井 大之 さん

早稲田大学
勤務先：一般事業会社

2016年12月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：79点（2016年2月／1回目）、BEC：75点（2016年11月／3回目）
REG：76点（2015年11月／1回目）、AUD：78点（2016年5月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

ビジネスやそれ以外の様々な場面においても、普段から、英語で情報を取りにいかねばならないと感じることが多く、会計や税法等の基準についても、原文で読むことができれば、業務をより良く遂行することができるのではと思ったこと、また、よく言われていることではありますが、英語＋会計のバックグラウンドで（今でも）差別化が図れると思ったからです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：BATIC® 969点コントローラーレベル
英語知識：TOEIC®L&R 480点
※典型的な会計力>英語力なパターンでのスタートでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

以前から、会計の資格であればTACと思っていました。やはり、安心感がありました。
U.S.CPA（2015年1月より学習開始）の前哨戦として、BATIC®を受験（2014年12月）しましたが、その際もTACを利用しました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師・教材共に非常にわかり易く、安定しているなと思いました。DVDを早送りして聞くこともありましたが、早送りしてもきちんと飲み込むことができるくらい、丁寧に説明してくれていました。TAXの直前総まとめの教材は、知識を整理するのに非常に役に立ちました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

八重洲校の個別DVD講座に通いました。
学習を始めてから4科目合格まで2年弱です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

FARとREGは、MC（四択問題）はTACの問題集だけで合格できます。合格に必要な労力だけに絞るべきだと思います。SIMも直前に解答方法等を確認した程度です。

BECは試験範囲も広く、TACとBeckerとで一番テキスト、問題集ともに載っている内容に乖離があるように感じました。AICPAが難易度をどんどんあげると明言している科目だけあって、4科目の中で唯一、合格までの距離感がつかみにくい科目だと思います。英語に苦手意識はありませんでしたが、BEC不合格の度に届く Score sheetで、MCのStronger判定、WC（記述問題）のWeaker判定を目の当たりにし、英語力の底上げの必要性に初めて向き合えたのが、2度目の不合格が突き付けられた2016年の初夏でした。会計が得意であっても、一般的にMCだけで75点を取ることはとても難しいです。MCもWCもバランスよく得点することが大切です。このことが理解できずに、MCだけで取りに行くと、ただでさえ掴みどころのない科目であるのに、より合格を困難なものにしてしまいます。Beckerの必要以上に細かい論点もMCだけで取りに行こうとすると気になってしまい、非常に非効率だし、精神衛生上も良くないです。WCでも得点ができる自信をつけ、バランスよく得点できる能力や感覚は、合格への距離を縮めてくれます。ぜひWCにも相当程度時間をかけてください。3度目の受験の際はWCから学習をやり直したほど力を入れました。WCではBeckerの解答で特に重要だと思うところを20題ほど抜き出して筆写を繰り返しました。序論・本論・結論と、文の構成を意識しながら、解答をそれぞれ10回は紙に書くようにしまし

た。これを繰り返していると、関連する他の問題へも応用が利き始め、いわゆるレパレッジがかりかかります。「もっと英文を良くしたい！」という思いが沸き起こってくるようになり、この作業が楽しくなってきました。具体的には、短文をつなげて、関係代名詞で1文にまとめてみたり、動名詞を使ってよりシンプルでネイティブらしい英文へと改良したい欲が出てきます。その繰り返しで英文のパターンが自然と染み着いてきます。英語は結局、動詞が鍵になります。Becker解答英文を書いていると、日本人では思いもよらないエレガントな動詞でシンプルに文章が紡がれて書かれているのが分かるようになってきます。ぜひ動詞に着目して下さい。英語に苦手意識はありませんでしたが、英語力はそれほど高くないため、最後は量でカバーして、質へと転換していきました。

本試験では、予想した問題は1題も出ませんでした。さすがにあれだけ書けば1題はドンピシャで、あと1題は何とかかける、あと1題は採点されない…という想定だったので、想定外でしたが、不思議と焦りはありませんでした。相当な量を書いていたので、想定外の問題でも、どのような事を書けばよいのかがイメージできましたし、採点対象外の1問も明確に判断することができました。採点対象外だと判断した問題は、明らかに難易度が違っていました。不合格だった2回ではそのような判別は出来ませんでした。もちろんその問題の解答もそれなりに書きました…

WCの学習に限らず、不合格を経験したAUDでも、私ほとにかくBeckerの解答英文を繰り返し紙に書くようにしました。書いていると分かりますが、シンプルでポイントをついていて非常によく考えられた英文です。内容を正確に理解することが求められる、日本語で言うところの国語のような試験であるAUDなどは特に助けられました。英語が得意と言いつても人の多くは、結局は文法が苦手ということになるかと思いますが、英文法に関する情報は、今やGoogle等、いろいろなところで得ることができますし、英文法を教えてくれるツールはたくさんあります。まずは手を動かして書いてみるのだと思います。時間的な制約がある人がほとんどだと思います。私もそうでした。筆写することなど時間が取れないという感想を持つ方も多いと思います。ただ、実際に手を動かしてちゃんと腑に落とし込めれば、関連する論点ではもう書く必要はありません。分かるまでが少し負荷がかかりますが、結局分かったつもりが一番怖いので、時間が掛かるようにみえて、この方法が一番良かったと確信しています。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

学歴審査の際に、現地の担当者と多少メールでやり取りしなければならなかったことがありましたが、あとは概ねスムーズに行うことができました。

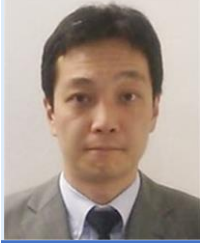
Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

実務に直結している内容が多いので、会社で資料の形式を変更する際に、色々なアイデアが浮かぶようになりました。米国の子会社の税務申告書に関して、上司がアドバイスを求めてきたのですが、自信を持って回答することができました。日本以外の会計や税法のルールを知ることができ、当然ではありますが、根底にある考え方の違いを理解することができました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

英語に苦手意識があっても、筆写することによって、必ず克服することができます。英文を書いて、文法の疑問点があったら必ず確認して解決していくというプロセスを踏んでいけば、留学経験がなくても、帰国子女でなくても合格することができます。

そして合格すれば、ビジネスマンとしてのフィールドや視野がさらに広がってくると思います。会計＋英語による差別化は古くから言われていることかもしれませんが、今でも本当に有効な手段だと思います。誰もがチャレンジで乗り越えていただける試験だと思います。



やってみて分かるUSCPA試験の面白さ

足立 正和 さん

40歳代

東京大学経済学部

勤務先：政府系金融機関

2016年12月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

FAR：89点（2016年12月／3回目）、BEC：79点（2016年7月／4回目）

REG：85点（2016年12月／3回目）、AUD：86点（2015年8月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

15年程前に祖父が亡くなった時、孫達にそれぞれ100万円ずつの相続が行われることになりました。何か有意義なことに使いたい、何が良いだろうかと考えていたところ、友人が他校でU.S.CPAの勉強をしていることを聞き、自分もその学校に受講料を支払いました。ただ、当時は会計知識もなく、会計単位も持っておらず、受験資格がないことを知ると、急に熱が冷めてしまい、実際の勉強はほとんどやりませんでした。後になって、教材をもう一度見る機会があったのですが、テキストだけではよく理解できなかったため、結局試験を受けることはなく、せっかくもらったお金を有意義に使うことができず、どこか心に引っ掛かったものがありました。

その後、転職を経験し、財務や経理の仕事に携わるようになり、簿記の2級をTACで取得、証券アナリストもTACの教材を使って合格をすることができたのですが、もう一度CPAの学習をやってみたいという気持ちになり、再開することにしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級、証券アナリストの会計科目も学習済み。
英語知識：英検1級。仕事でも英文を読む機会あり。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

いくつかの専門学校の教材を確認したのですが、TACの教材が、一番解説が明快かつ詳細で安心感があったということが選択のポイントになりました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

英語のテキストだけだと解説が不十分なことがあり、結局問題を解いているだけになってしまいます。全体像が把握できず、私自身の経験では、SIMの問題（総合問題）を解くことができず苦労しました。その点、TACの教材には日本語の解説が付いているので、しっかりと理解した上で、問題を解くことができるようになりました。

直前対策総まとめの教材は、全体像の把握や知識の整理に非常に役に立ちました。

ただ、MCの問題（四択問題）は同じような問題が多いので、Beckerの問題とAICPAのリリース問題とをブレンドしたうえで、TACの方で問題数を圧縮していただけると、もっと効率よく学習できるのではと思いました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

AUDのゼミには通学しましたが、それ以外はBeckerコースや直前対策の講義をDVDで学習しました。

再開してから4科目合格までは3年半ほどでした。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

他校で会計単位のみを取得して、2013年2月に、ニューハンプシャー州で出願しました。その時は、市販されているU.S.CPAのテキストと問題集で学習し、まずはBECから受験しました。結果は75点で合格でした。

次にREGの学習に移りました。市販の問題集でMCの問題を解いてから解説を読むようにしたのですが、TAXは理解できないところもあったので、TACの直前対策講座を受講することにしました。その結果、今思えばBASISさえもよく理解していなかったのに、試験にはギリギリ合格することができました。

続いて、FARの学習に移ったのですが、AICPAのリリース問題7～8年分を解答して、論点を覚えていくようにしました。その結果、3つ目のFARにも合格することができました。

残りはAUDだけとなったのですが、ここで仕事やプライベートで忙しくなってしまうために、間を少し空けてしまうことになりました。

落ち着いてきたところで学習を再開しました。

FARと同じように、AICPAのリリース問題を7～8年分解答し、さらに全体像を把握するために、市販のテキストを用いました。感覚的には合格することができたのではと思ったのですが、残念ながら、結果は67点で不合格でした。

その後、BeckerコースのAUDを受講し、Beckerの問題やAICPAのリリース問題を解答したうえで、2回目の試験に臨んだのですが、72点で合格することができませんでした。そこで、AUDのゼミに参加することにしました。これにより、断片的だった知識を繋げることができ、また真剣に勉強するゼミ生から刺激を受けモチベーションが上がったこともあり、今度は86点で合格することができました。

AUDを学習している間にその他の科目が失効してしまったので、再度受験する必要があります。

まずはBECを受験しましたが、ギリギリで不合格となってしまいました。

分かったつもりになってしまっているところがあったので、TACのBECの教材を読み直し、WCの添削コースを受講した後で再チャレンジしたところ、今度は79点で合格することができました。

次にREGを受験したのですが、正直、込み入ったところはカットして受験してしまったので、SIMをほとんど解答することができませんでした。BASISも分かっていないようでは、合格はとてもおぼつかないと感じたため、もう一度直前対策の教材を一からやり直したところ、今度は85点で合格することができました。

FARも同時期に受験しましたが、やはり、内容をしっかり理解していないと、SIMの社債やリースの問題を解くことができないと思ったので、直前対策の教材でしっかりと論点を確認してから受験したところ、89点で合格することができ、晴れて4科目合格を果たすことができました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

試験会場にパスポートを持っていくことを忘れてしまったことがあり、何とか交渉したのですが、結局受けることができませんでした。それからは、必ずNTSに「パスポート！」と書くようにしました。

試験中に休憩を取ることが一度もなかったのですが、ある時、急にトイレに行きたくなり、試験官にアピールしたのですが、テストレットを終了させなければ退出不可とのことで、その時はテストレットのちょうど真ん中くらいだったので我慢しました。

パソコンの電卓は非常に使いにくかったので、できる限り自分で計算するようにしました。

U.S.CPA試験自体は日本受験ができて便利になってはいますが、日本の資格試験とは違い融通が利か無いことも多々ありますので注意してください。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

海外事業を検討する際に、事業の採算性やリスクの所在を判断する上で、U.S.CPA試験の勉強で幅広く学んだ会計・税務・法律の知識が役立っています。

浅くではありますが、幅広い知識をある意味効率的に得ることができたので、業務を行う上での自信につながっています

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

当初は独学でも大丈夫くらいに思っていたのですが、やはり専門学校の教材、特に日本語の解説が付いているもので学習したほうが、考える時間を増やすことができ、効率よく合格することができると思います。

また、AUDのゼミに参加した時に思ったのですが、なんとなく学習しているようではダメで、本当に真剣に取り組んでいる人が合格しています。真剣に取り組めば、必ず合格できる資格だと思います。

U.S.CPAは、自分自身のフィールドや視野が広がってくる資格だと思いますし、勉強していて非常に面白かったです。お薦めの資格です！



遠回りをしたものの、最初の合格で手応えを得、合格する勉強法に気づきました。

山本 麻里子 さん

恵泉女学園大学 卒業
勤務先：米国商社

2016年11月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：83点（2015年10月／2回目）、BEC：81点（2016年2月／3回目）
REG：81点（2016年11月／1回目）、AUD：85点（2016年5月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

以前勤務していた会社では、営業事務を担当していたのですが、日商簿記の3、2級に合格したのをきっかけに、経理の部署へ異動となりました。さらに海外子会社のスーパーバイズ担当となった際、英文会計の知識を取得するためにBATIC®を受験して、コントローラーレベルを取得することができました。

その後、現在の会社に転職をしたのですが、U.S.GAAPを採用している会社ですので、職場にU.S.CPAを取得している方が何名かいらっしゃって、中にはU.S.CPAを取得したことにより、派遣社員から正社員として転職された方もいらっしゃいました。漠然といつかチャレンジしたいと思っていた資格でしたが、今がその時だと思い受験を決意しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記 2級 BATIC®コントローラーレベル
英語知識：英検2級、TOEIC®L&R TEST 860点
大学では英米文化を専攻

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

BATIC®を受験する時に、TACで講座を受講していましたので、U.S.CPAもTACでという思いを、何となくですが持っていました。

様々な情報を総合すると、より確実に合格するためには、やはりTACで学習するのが一番だと思いました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

内田先生のTAXの総まとめと小泉先生のAUDのまとめのプリントがとても役に立ちました。自分でポイントを抜き出す作業を省くことができ、効率的に学習することができました。追加で書き込みをして、自分なりのまとめに仕上げ、試験前に確認するようにしました。また、TACの教材は中身が充実しているので、他のテキストや問題で補充する必要はなく、与えられた教材をしっかり学習することで、着実に合格することができました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学で1年間、教室に通いました。

その後、受験に必要な単位取得に半年、本試験受験に2年間費やしました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全科目、TACテキスト→TAC問題集→Beckerの問題という流れで学習しました。

最初、FAR、BECを受験して不合格だったのですが、その時は、復習に時間をかけすぎて、問題を解いて実践力を養う時間が不足していました。その後、問題を解く時間を多めに取るようにしたところ、4科目連続で合格することができました。復習は大事ですが、あまり時間を掛け過ぎないようにした方が良いと思いました。問題を解いて、間違えてしまったところだけテキストに戻った方が、知識が定着しやすく効果的だと思いました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

試験当日は腹持ちと消化の良い食事をするようにしました。また、試験直前にトイレを済ませ、3時間の科目では休憩を取らずに時間をセーブしました。

試験当日、NTSを忘れて受付に手間取っている方がいらっしゃいましたので、忘れないように注意してください。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

まさに今、仕事で様々な知識を使っています。

BATIC®を学習した時点では、知識が会計に偏っていましたが、U.S.CPAの学習をすることで、ビジネス全般の知識を体系的に得ることができたと思います。

会社内で、持ち回りでCOSOのレクチャーをする機会があったのですが、ちょうどCorporate Governanceを学習していた時でしたので、しっかりと役目を果たすことができました。今後は経営戦略に有効な情報を提供できるような、分析力を養っていきたいと思います。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

どんなに短い時間でもいいので、毎日学習することがとても大事だと思います。

最初のうちは、週末にまとめて時間を取るようにはしていましたが、少しでも間を空けてしまうと、せっかく勉強した内容を忘れてしまうので、効率がとても悪いと思いました。

毎日の生活のリズムを作って、そのリズムの中に勉強の時間を組み込むようにすると、うまくいくのではないかと思います。U.S.CPAの試験は、「理解」が問われてきますので、出題の確率によってここは「要る」、ここは「要らない」と取捨選択する勉強よりも、全体を理解しようとするのが大事だと思いました。理解していると、別の科目で同じ内容が出てきた時にも、すごく楽に学習することができました。

長期戦になりますので、くれぐれも無理はなさらず、安定的に継続してってください。

TACを信じる。自分を追い込む。合格した自分を想像する。



T.S.さん

1981年生まれ
一橋大学経済学部
勤務先：金融機関
米国在住、日本証券アナリスト協会検定会員

2017年3月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：87点（2016年8月／1回目）、BEC：83点（2016年10月／1回目）
REG：78点（2017年1月／1回目）、AUD：80点（2017年3月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

海外勤務の夢を叶えたい、というのが一番最初のきっかけでした。昔から漠然とUSCPAという資格の存在は知っており、「会社にアピールする為に取りあえずそれらしいことを何かやってみようと思った」というのが恥ずかしながら本当のところでは。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：全くのゼロです。金融機関に勤めているので、出来上がった財務諸表を分析することはある程度慣れてはいますが、財務諸表を作るまでのプロセスについては全く何の知識もありませんでした。今となっては信じられませんが「商品Aを100円で売り上げ、現金100円を受け取った」の仕訳も出来ませんでした。
英語知識：TOEIC 915点（2009年）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

資格の予備校をTAC以外知りませんでした。試しにTAC水道橋校（確か水道橋校だったと記憶しています）へ伺ったところ、非常に丁寧に教えて頂き入学を決めました。以前証券アナリストを取得した際は独学だったのですが、やはり予備校のきちんとしたカリキュラムに沿って学習した方が理解も深まり、知識がしっかりと定着すると実感しました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

教材、カリキュラムの質は申し分ないです。全科目合格した今になって振り返ると、TACの講義、問題集をきちんとこなし、理解すればちゃんと合格出来るように構成されているな、とつくづく思います。
草野先生は私の人生で最初に簿記を教えてくれた先生ということになります。特に「T-Accountでは、Cashは右から入って左に出て行く（FAR1）」と「Demand Curveの右側は不満足、Supply Curveの右側は赤字（Eco）」の二つを聞いた時には目から鱗が落ちました。強烈に記憶に残りましたし、試験本番でも大変役立ちました。
トニー先生のWritten Communicationの講義も非常に分かり易かったです。講義の中で「試験本番で全く分からない問題が出て、とにかくパニックにならず、落ち着いて知っていることをまずリストアップすること」とおっしゃっていましたが、本当にその通りでした。本番のWCで本当に見たことも聞いたこともないトピックが出題されて一瞬面食らいましたが（そしてそれがどんな問題だったか今も思い出せないのですが）、トニー先生の言う通りにつらつらと知っている単語を並べてみることで徐々に落ち着きを取り戻し、最終的にはなんとか論文として形にすることができたと思っています。
Taxの勉強も今回初めてでしたが、内田先生の講義は「絶対に受講生に合格して欲しい」と強く思っているように感じました。最初という訳か直前対策まとめ（直対）を使って勉強することに心理的な抵抗があり、大事なポイントを自分なりにまとめてノートを作っていました。ところが作り続けてみると途中から直対にどんどん似てきていることに気が付き、「ああ、最終的に行き着くところはここしかないんだな」と素直に納得しました。
AUDの田中先生は非常に誠実なお人柄がDVDの画面から伝わってきて、「こういう風に謙虚な姿勢で物事を見て、中立に判断をすることが監督では大事なんだろうなあ」と感じました。講義と講義の合い間に毎回ご自身の体験談をお話頂けるのですが、これが非常に私のやる気を盛り上げてくれました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。単位取得も含めてトータル一年ちょっとです。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

FAR→BEC→REG→AUDの順に、一科目ずつ進めました。
1. DVDを視聴。
2. TAC問題集の問題文と解答解説を読む。問題を解こうとせず、ただ読む（一周目）。
3. TAC問題集を全問解く（二周目）。
4. TAC問題集の間違った問題、あまり自信の無い問題をもう一度解く（三周目）。
5. Simulation対策&総まとめ講義のDVDを視聴。
6. Simulation対策の問題を解く（一周目）。
7. Simulation対策で間違った問題、あまり自信の無い問題をもう一度解く（二周目）。
8. Becker問題集を一問飛ばして解く（一周目）。
9. Becker問題集で間違った問題、あまり自信の無い問題をもう一度解く（二周目）。

10. 直前期にオンラインの模擬試験を解く（2セットあるので、土日1セットずつ）。

基本的に全科目上記の流れで勉強しました。FARは最初だったので要領が分からず、Becker問題集をオンラインも含めてかなり大量に解きました。結果点数は87点でしたが、私の目標はあくまで試験に合格すること（75点を取ること）だったので、「ちょっとやり過ぎた」という感覚でした。BEC以降はBecker問題集は一問飛ばして解くことにしました。同じような問題がかなり重複しているので、一問飛ばしても特に問題は無いです。

自分を追い込む為に、まず試験会場の予約を最初に取り、支払いも済ませ、逃げられない環境を整備し、そこから勉強を開始するスタイルを探りました。BECが終わった後、次のREGの試験会場を予約したのにも関わらずどうしても勉強する気持ちが盛り上がらない時期が数週間続いてしまい、REGの勉強時間が足らなくなり直前期に相当焦りました。おかげで大晦日も朝から紅白歌合戦の時間までずっと勉強する羽目になり（NHKは海外でも見れるので、録画して夜に見ました）、その上Becker問題集を解く時間を確保出来ず、結果点数は一番低くなってしまいました。それでも合格は出来たので、つまりは、TACの問題集をきちんとやりさえすれば合格点を取れるということですね。

AUDは最も苦労しました。とにかく取っ付きにくい。最初の頃は何が問われているのか全く分からず、TAC問題集の一周目は特に辛かったです（講義自体が非常に分かりやすかった分、そのギャップが本当に苦しかった）。自分なりの直対を作ることで徐々に頭の中が整理され、最後には問題の「問われ方」というか「論理の癖」のようなものが掴めてきたように思います。先ほど「TACの問題集をきちんとやれば合格できる」と言っただけですが、AUDに関してはBeckerもしっかりこなすとより良いと思います。英語の言い回しが非常に独特なので、より多くの英文問題に触れて慣れることが有益だと感じましたので。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

最初にTAC水道橋校に伺ったのは2013年1月でした。最短で合格できるよう、当時取得単位要件の少なかったニューハンプシャー州で出願しようと思われ、TACに受講料を支払った直後に同州の単位要件厳格化が発表になりました。また、タイミングの悪いことに同時期に東南アジアへの転勤が決まってしまう為、とにかくニューハンプシャー州の受験資格だけはとってしまおうと、ブラッドリー大学で必死で単位を取得しました。転勤先の国では受験が出来ないので、とりあえずNTSだけをとっておいていずれまた勉強を再開しようと考えておりました（ニューハンプシャー州は変更になる前の要件で一度でもNTSを取得してしまえば、変更後も受験資格は維持されるということでした）。

3年サボった後2016年に米国への転勤が決まり、「ここでやらなければ一生やらないだろう」と一念発起。TACの北米オフィスへ問い合わせたところ、5年間再受講制度も含め丁寧にアドバイス頂き、勉強を再開することにしました。ところが今度は2017年4月から新試験制度が始まるということが判明しました。一瞬怯みましたがある意味ゴールを2017年3月に設定して自分を追い込むことが出来たので、結果的には私にとっては良かったです。

サボっていた数年間でFARではExtraordinary項目が無くなっていたり、Corporate Governanceの内部統制フレームワークが少し変わっていたり、いくつか変更点がありました。しかし、普段の勉強は3年前のテキストと問題集をこなし、その後でSimulation対策&総まとめ講義の最新版を購入することで十分キャッチアップできました。TaxでItemized DeductionのMedical Expense控除を散々「AGIの7.5%以上」と勉強してきたのに、最新版の総まとめ講義のDVDを見たら内田先生が普通の顔して「10%ですね」みたいなことを言っていて、焦ったりもしました。極たまに重要な変更もあるので、時間が空いてしまった方はほんの少しだけ注意が必要かもしれません。

その他の受験手続等については、特に何の問題もなくスムーズに進みました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは？

現在日本企業の米国子会社に向向しているのですが、海外子会社のガバナンスをどうするかということが大変大きな課題の一つになっています。USCPA試験の勉強は、財務会計、管理会計、監査、コーポレートガバナンス等色々多岐に亘りますが、一言で言えば「企業としての理想形とはどういうものなのか」を突き詰める作業だったように思います。その意味で、試験勉強を通じて目指すべき姿を多少なりとも理解できた為、米国人スタッフや本部の人達と議論をする上で自信をもって話れるようになったような気がします。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

体験記のタイトルの通りです。
まず、TACを信じる。講師の方々が授業中に言っていたことは殆ど全てが正しかったです。受講生に必要なことは、それを素直に信じることじゃないかと思えます（これが意外と難しい）。
そして、自分を追い込む。試験日を最初に設定するというやり方は私にとっては非常に有効でした。
それでもどうしてもやる気が出ない時期は、合格した自分の姿を想像して二や三する。私自身、この合格体験記のコーナーを本当によく読みました。全員分覚えちゃうんじゃないかというくらい読み、自分を奮い立たせました。
大変な試験ですが、やり切った時の達成感は何にも変え難い経験です。是非、頑張ってください。



Beckerを解くことが合格への最短ルート

高島 憲一 さん

1984年1月生まれ
東京大学大学院 2008年卒業
勤務先：大手税理士法人

2016年9月 USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：91点（2016年7月／1回目）、BEC：84点（2016年4月／1回目）
REG：92点（2016年9月／1回目）、AUD：89点（2016年4月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

現在、大手税理士事務所の米国税務サービス部門で勤務しており、部門内ではU.S.CPAを取得するのが当然の流れであるということ、また、申告書等への署名はU.S.CPAホルダーでないと出来ないため業務の都合上で必要ということ、さらに、今後の昇進等のキャリアプランを考えるとU.S.CPAの取得が必須になるためです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：ゼロ
英語知識：TOEIC®L&R TEST 990点・TOEFL® 108点
(海外経験はなし)

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

勤務地や自宅から近い場所にTACの校舎があったということと、U.S.CPAホルダーの同僚が最も優れていると言っていたBecker教材を日本で唯一TACだけが提供しているということからTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

Beckerの問題集が本試験と非常に近い問題が出題されるため非常に役に立ちました。また、Beckerの問題集を解くにあたって必要な知識はBeckerの英語テキストではなくTACの日本語テキストと問題集によって学習しましたが、TACの教材は最小限で合格圏内に入るために必要な知識がコンパクトにまとまっており、不必要に細かい個所に時間をかけることがなかった所が非常に良かったと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信ですが、実際には授業を視聴したことはなくテキストだけ見て独学で勉強しました。学習期間はワシントン州の受験要件を満たすための会計・ビジネス単位取得に1年かかり、単位取得後は平均1月間隔程度のペースで4科目受験しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

基本的に全科目共通で、以下の流れで学習しました。
TACのテキストを読み込む⇒TACの問題集を解く⇒Beckerの問題集を解く⇒理解が不足している箇所をTACのテキストに戻って再学習する⇒Beckerの問題集を再び解く

以下は科目別に注意したポイントです。

FARとREGに関しては学習すべき分量が他の2科目に比べて多いため、TACのテキストを学習後、TACの問題集はほどほどにすぐにBeckerの問題集を繰り返し解きました。Beckerの問題集は十分な量があるので、TACの問題集は飛ばしてBeckerの問題集だけで合格には十分だと思います。TACのテキストとBeckerの問題集の対応表があるため、この学習方法がベストだったと思います。

BECに関しては、IT関連の学習はほどほどに、出題パターンが決まっている管理会計やコーポレートガバナンスで確実に点数を取るように学習時間を配分しました。

AUDは暗記項目が多いので、本試験前の2ヶ月ほど前から本格的に勉強しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

TACの受講生情報サイトに受験手続の案内等が細かく案内されているので、特に問題もなくスムーズに受験手続を実施し、本試験も受験出来ました。本試験ではBECのIT絡みの問題で全く見たことがなく解答しようのない問題がちらほら出ました。FARはかなり難しく感じましたが、正答率が高いほど難易度が高くなると聞いていたので落ち着いて対応出来ました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

直接的に業務に役立っていることとしては申告書等のIRSへの提出書類に署名が出来ることです。また、U.S.CPAを維持するためにCPEを継続的に取得しなければいけません、そのために会社が海外の研修に連れて行ってくれますので、やはりU.S.CPAを取得して良かったかなと思います。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPAの試験は英語で4科目受験するということで学習期間が1年単位となり長丁場になりますので、必要以上に学習に時間を割くことなく効率よく勉強することが合格の鍵になると思います。そういった意味ではBeckerの問題集に重点を置いて学習し、TACの教材はそのためのサポートツールとして使用されることをお勧めします。Beckerの問題集を淀みなく解ければ確実に合格出来ますので、お仕事も忙しいかと思いますが頑張って合格を目指して下さい。

AUD3回不合格・現行試験制度での実質ラスト受験・科目合格期限切れ直前からの合格へ



S.O さん

1989年生まれ
慶應義塾大学経済学部 2012年3月卒業
勤務先：資産運用（投資信託）

2017年2月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：79点（2015年11月／1回目）、BEC：75点（2015年11月／1回目）
REG：82点（2016年11月／3回目）、AUD：81点（2017年2月／4回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

英語、法律・会計知識等の会社外でも通用するスキルが習得できると考えたため。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：証券アナリスト、日商簿記2級所有
英語知識：TOEIC®L&R TEST 780点（2012年時点）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

証券アナリスト取得時に利用していたこと、また大手の安心感もあったため。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

勉強だけでなく、受験のコツも教えてくれたところです。

（例）

- ・問題集が難しければ、時間を掛けて解くよりも、いきなり答えを見て問題・解答の意味を理解することを優先。
- ・合格がゴール。100点を取ることがゴールではない。勉強時間の限られている社会人は効率的に合格点(75点)を目指す。
- ・パソコンのトップページをAICPAにするくらい合格に拘ること。

これは冗談だと思い受講時は聞き流していましたが、REG・AUDに2連続で不合格となり、真剣に熱意が必要だと思い実践。会社のパソコンのトップページをAICPAにし、スマホの待ち受けもaudit reportのサンプルにしました。

他には、TACは自習室が使える点も良かったです。カフェは雑談や音楽が気になるため、TACでは自習室+耳栓で集中して勉強できました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信

2014年12月：勉強開始

2015年6月：BU大学の単位取得終了

2015年11月：各科目の受験開始

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

<全般的なこと>

まず試験自体を理解することが重要です。

問題数はmultiple約90問、simulation約7問。

一方、配点はmultiple60%、simulation40%。

⇒単純計算で、multipleが9割解けてもsimulationが5割なら74点で不合格となってしまいますので、simulationは疎かに出来ません。

他にも採点されない問題がある等、受講生サイト内「USCPA試験の採点方法」pdfは要熟読です。

※問題数、配点は2017年3月までの旧試験制度のものになります。

<科目別>

FAR・BEC：計算問題が多くmultipleでの知識がsimulationにも応用可。TACのmultiple問題集をほぼ全部解けるようにし1発合格。

REG：木で例えると、multipleが枝（個別論点）、simulationが幹（Gross IncomeからTaxまでのフローなどForm全体の流れ）。問題集はmultiple対策にはなるもsimulation対策には弱いため、ネットでダウンロード出来る米国大統領のForm（所得税申告書）を

見る等で全体の流れを理解した上で、simulation問題を重点的に解いた。また控除額などは頻繁に数値が更改されるため受講生サイトは必ず確認。

AUD：計算問題がなく英文読解に近い。仮にフレームワークを理解していても複雑な言い回しなど、見慣れない英単語等により問題が解けないリスクがある。

（例）covered memberの定義は理解するも「siblingはcovered memberか」との問いに、siblingの意味を知っていないと答えられない等。

このように英文読解固有のリスクがあるため4回目受験の際は総まとめ・Beckerを再受講しBeckerの問題集は3-4周するなど100点を目指す勢いで勉強。

Beckerの問題集はスマホで、通勤時間・会社の昼休憩など隙間時間を活用し数問ずつでも進めた。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

有休による平日受験にも関わらず、自分より若い大学生はもちろん、シニアの方やアジア圏からの受験生も見られ刺激的だった。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

会計・財務関連の仕事でないため直接的に役立っていることは無いが、英文読解力は間違いなく強化された。また転職エージェントの話を聞く限り監査関連への転職は有利そうだと感じています。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

諦めようと考えている人の励みになればと思い、恥ずかしながら難航したAUDの点数推移等です。

AUD：54→52→51→81

1回目REG・AUD不合格。

手ごたえがあったものの点数が共に50点台で不思議。ただしFAR・BECは1発合格だったので「次で取れるな。USCPA簡単だな」と内心思いました。

2回目REG・AUD不合格。

AUDに限っては1回目より点数が下がり絶望。

3回目REG合格、AUD不合格。AUDはさらに点数が下がり絶望。

三重苦（①他の3科目は受かっておりやめるともったいない状況、②新試験制度目前で実質次がラストチャンス、③科目合格のexpire目前）で諦めようと思いました。

周りから応援があり、TACにもメールで相談したところ

「あとほんの少しのところまで来ています！ここが正念場です。頑張ってください！」

と励ましの言葉をいただき、粘って頑張りました。

REG・AUDは毎回受験の度に「これは合格したな」と思いましたが結果3、4回受験することになりました。試験の難しさと言うより、人生の難しさを感じました。

また“社会人だから時間も限られる”との話がありますが、入社前からTACの自習室やカフェを活用して朝勉強している人もいますし、会社の昼休憩や通勤時間などを活用する事も出来ます。

時間を作り出すこと、プロのTACの方のアドバイス通りに効率よく勉強すること、粘り強く諦めないことの大切さを学び、今後の勉強方法でも活かそうです。

人生1回、後悔の無いようみなさんも頑張ってください！



Becker3回転と勉強仲間との交流で4年間、19回の本試験で最終決着

Y.S さん

1967年生まれ

神戸大学

勤務先：一般事業会社

中小企業診断士（2012年登録）

2017年3月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：76点（2017年3月／6回受験。内、expire後1回目）

BEC：79点（2015年10月／3回目）

REG：81点（2016年12月／5回受験。内、expire後2回目）

AUD：81点（2016年10月／5回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

中小企業診断士に合格した後、経営管理とファンド投資管理の部署に人事異動となった際、自社の財務諸表の作成並びに投資のミドル・バックオフィスの責任者となりました。国内監査法人とのコミュニケーションや米国ベンチャー企業への投資の管理の仕事があったので、そこで英語で財務会計を学び、資格を習得できる機会としてチャレンジしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：なし（中小企業診断士合格程度）

英語知識：なし（TOIEC受験経験無し）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

中小企業診断士の受験勉強で知り合った方がTACで合格され、私の会計と英語のレベル感を承知された上で、TACをお薦めしていただいたからです。また、自習室の使い勝手の良さが決め手になりました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

まずは、会計が初学者レベル、しかも英語も大学卒業以来使っていなかった私でも、理解しやすく授業していただいた先生方です。私の個別の質問にも丁寧にご回答戴き、また、常にモチベーションを上げていただきました。受験期間の後半ではBECKER中心に勉強して成果が出たので、これがよかったと考えております。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学で学習しました。合格までの学習期間は4年間です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

当初は問題集を中心でした。しかし、英語の理解がイマイチなまま日本語解説で理解したつもりでも合格点がなかなか取れなかったため、途中でBecker中心に切り替えました。本試験前にBeckerのMCとTBSを3回転するようにしました。1週目は全問解く中で間違えたり、理解があいまいだった問題に印をつけました。2週目と3週目は印をつけた問題を解くことで3回転させました。するとAUD、REG、FARの3科目で連続して合格点を取ることができ、最終的に4科目合格を果たすことができました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

自主勉強会での仲間との交流が自分の大きな原動力であったと思います。不合格となった時や、特に科目合格がexpireした時には荒んだ心理状態の私の話を聞いて励ましてくれたり、受験に関する有益な情報を交換したりと、いつもたいへん助けられました。勉強仲間の皆さんにはたいへん感謝しております。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

監査法人や社内の財務経理担当者とのコミュニケーションの中で論点を明確にできることが役立っております。相手からの説明に対しての私からの質問や対応すべきことが明確になり、業務の効率化と品質の維持ができるようになったと感じております。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

英語と会計の知識がイマイチの方には本試験前までにBeckerを3回転すること、そして完全合格までモチベーションのコントロールに自信の無い方は勉強仲間との交流をお勧めいたします。



働きながら効率よく合格

浪江 信之介 さん

大手監査法人 勤務予定
U.S.CPA合格後、通信会社営業職から
大手監査法人に転職

2016年12月 USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：75点（2016年5月／1回目）、BEC：75点（2016年5月／1回目）
REG：79点（2016年12月／2回目）、AUD：90点（2016年10月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

当時、グローバルに活躍できる何かの分野のプロフェッショナルになりたいと考えていました。「グローバル」と「専門」という言葉を見たときに、会計だと世界中の企業に使われていて、しかも世界的に会計基準が統一されつつあることから、世界中どこでも同じ専門知識を使うことができると考え、U.S.CPAにチャレンジしようと思いました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記検定2級
英語知識：TOEIC®L&R TEST 900点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

周りの友人の多くがTACで何かしらの資格に合格していたため、他社のガイダンス等には参加せず迷わずTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

教材が充実していたことです。TACで提供されている教材以外は不要で学習に集中できました。また、内田先生の直前まとめレジュメが非常にコンパクトにできており、講義も熱がこもっていてよかったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で学習しました。学習期間は1年3ヶ月です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全般的には、まず問題集から入って各科目の特性に合わせて学習方法を追加するというやり方で取り組みました。科目によっては学習時期が重複しているものがありますが、科目別の学習法・学習期間としては以下に行いました。

（FAR：財務会計）

学習期間としてはこの科目が一番長かったです。まずはアウトプットから始めました。この科目については簿記2級の知識があったので全く知らないというところはあまりありませんでした。講義は見ずに問題演習から入ってTACの問題集を3周程度回しました。

1周目は、答えを見ながら解いて、どこが出題されるかをつかんでいきました。テキストは辞書代わりに使用しました。2周目、3周目はできなかった問題だけ演習するようにしました。MC（四択問題）の対策としては、Becker教材を使っておらずTACの問題集のみで十分だと思います。

Simulation（総合問題）対策としては、Beckerオンライン演習ソフトを使用し、単純に問題に慣れるように解いていきました。

（BEC：企業経営環境・経営概念）

試験直前の2週間で詰め込んで学習しました。

MA&Fin（管理会計・財務管理）は、講義は見ずに、テキストを1回転とTACの問題集をやっただけです。

CG（コーポレートガバナンス）とRatio（財務分析）はFARやAUDでも出題されますので、講義を見るところから始め、Beckerオンライン演習ソフトのMC（四択問題）は完璧になるまで繰り返しました。

ECO（経済学概論）は、講義は見ずにTACのテキストと問題集だけ学習しました。

ITは、講義を見るところから始め、TACのテキスト・問題集で演習しました。テキストだけでは分からないところはネットで検索して調べました。

Written Communication（英作文問題）は、本試験5日前から学習を開始し、直前対策教材の例文を完璧に覚えました。テスト本番では、書けるだけ書くことと文法を間違えないように意識しました。解答法としては最初に文章の構成を書いてしまい、あとは問われている論点を知っているかのように埋めていくというやり方をとりました。

（REG：諸法規）

TAX（米国連邦税法）は、知識のインプットについてテキストではなく直前まとめレジュメを完璧にするというところをゴールに学習しました。まずは、直前まとめレジュメの知識を定着させるために講義を見ました。その後TACの問題集を繰り返すというやり方で学習しました。SimulationはBeckerオンライン演習ソフトの問題に慣れるという意味で1周だけやりました。

BL（米国ビジネス法）は、講義を見ずにTACの問題集だけを完璧にしました。REGは全ての内容を完璧にするのではなく、時間をかけずに学習した方がいいかと思います。

（AUD：監査および諸手続き）

この科目は、知識の深め方が他の科目と全く違うと思います。結局3回も受験しました。AUDも他の科目と同じように問題集から入って学習したことが失敗でした。

一度不合格になったことで学習法を変えました。まず講義を見るようにし、Reportの型について全てどこに何があるのか覚えたのと、問題についてはだまされやすいものが多いので、Beckerオンライン演習ソフトを5～6回転して最終的に正答率が9割になるまで仕上げから受験に臨むことで合格することができました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

学歴審査、NTS（受験票）の取得時の両方でトラブルがありました。

学歴審査の際には、学歴審査機関が大学の単位を数え間違えており、TACの事務局の方に助けていただいて単位数を修正いただくことができました。

NTS（受験票）を取得する際は、5月に受験したかったのですが、NASBA（試験管轄団体）から受験資格がないという連絡が急に入ったため、これに対して自分に受験資格があることを説明し、NTSを発行してもらうために予想以上に時間がかかってしまいました。説明しても先方の手続が進まず、督促メールを何度か送りましたが2度無視されました。最後に「Very Urgent」という文言で24時間以内にNTSを発行するように強く依頼したところ、無事発行してもらうことができました。正確に意思を伝えることで先方も動いてくれるということが分かりました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

合格後、大きくキャリアチェンジし、夢だった会計のプロフェッショナルとしての道に進むことが出来た点です。転職活動の中でU.S.CPAの知識は高く評価されるのだということを感じました。グローバルに活躍出来る会計士の需要が増える中で、U.S.CPAは日本でも会計士として十分に就職ができる資格です。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

巷で言われているよりも難しい試験で、学習し始めると大変ですが、合格すると評価が高くリターンが大きい資格だと思いますので、ぜひ皆さんもチャレンジしてください。



最後は執念で合格

野口 洋平 さん

2017年3月 USCPA試験合格（ワシントン州）

FAR：87点（2017年3月／1回目）、BEC：77点（2016年11月／1回目）

REG：76点（2016年5月／6回目）、AUD：75点（2016年11月／7回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

財務・会計系のキャリアを一貫して積み重ねており、将来的にはCFOとして主に財務面から会社の経営に携わりたいと考えております。その中において財務・会計に関し、実務面の経験のみでなく理論的な側面からも確りと体系立てて学習し理解を深め、それを実務に還元していきたいと考えておりました。学習開始当初（2011年頃）、日本の企業によるIFRS導入の機運が高まっていたこともあり、同基準の学習も含まれるUSCPA試験の存在を知り、理論が実務に繋がる資格であると感じ、USCPA資格取得のチャレンジを決意致しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：証券アナリスト試験合格、税理士試験2科目合格（簿記論、財務諸表論）

英語知識：TOEIC®L&R TEST 700点台前半

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

USCPA試験の学習前に、証券アナリスト資格をTACにて学習させて頂き、講義内容が非常に理解しやすく試験合格に繋がったこともあり、信頼感のあるTACを選択させて頂きました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

専属の講師のご講義につきましては非常に分かりやすく説明を頂き、理解が深まりました。教材については仕事をしながらの学習となりましたので、DVD通信があり助かりました。問題集も解説がピンポイントで分かりやすく講義の復習に役立ちましたが、特に直前対策教材は基本講義で学習した内容が1科目あたり1冊の本に落ち目なくコンパクトにまとまっていたため、試験前は暗記できるぐらいまで直前対策のテキストを繰り返し熟読することにより全体の理解を深めることができました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で学習しました。

学習期間は2011年秋頃から2017年3月までです。最初の2科目（FAR、BEC）は一発で合格できたものの、転職も挟み仕事が忙しくなったことから、なかなかまとまった勉強時間が取れず、残り2科目（REG、AUD）は期限内での合格ができませんでした。その後も学習を続けREG、AUD試験の受験は続けていたものの合格出来ない状況が続いておりましたが、2017年4月の試験改正前に必ず合格してみせると一念発起し、空き時間を全て試験勉強に充て、無事合格に至りました。学習時間はおそらく4科目合計で1,500～2,000時間かけたと思います。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全科目同じ学習方法でした。まずはDVDで講義を視聴します。各回の講義視聴後、該当箇所のTAC問題集を解きました。科目全体のDVD視聴が終わったらもう一度TAC問題集を解く。その後、直前対策テキストを熟読し全体のポイントを暗記しつつ、Beckerオンライ

ン演習ソフトでひたすら問題演習をするというやり方で各科目とも仕上げました。

受験期間の中で失敗したポイントは、転職した後に勉強時間があまりとれなくなってしまい、REG・AUD学習時において基本講義を疎かにし、直前対策テキストのみに頼ってしまったことです。

昨年、一念発起してやり直した際は、当初の学習方法に戻しDVDを視聴⇒TAC問題集⇒Beckerオンライン演習ソフトと直前対策テキストという順に確りと時間を取り、基本の理解を深めて学習を進めていくことで合格に繋がったと考えております。

また、最終的に合格に繋がった要因の一つに試験科目を受ける順番もあるかと思えます。FARとBECはもともと他の資格で財務・会計面の学習を行っていたことがあり、当初から内容を概ね理解できていましたが、逆にREG、AUDは初めて学習する科目であり学習内容の理解に時間がかかってしまいました。私の受験の順番としては苦手科目であったREG・AUDを先に受験・合格した後に、FAR・BECの受験に移った方がExpire（科目合格の有効期限切れ）にならずに、より短期間で合格できたのではないかと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続はTACの受講生情報サイトの通りに行いましたので、特段のトラブルもなくスムーズに済ませることができました。

受験時は、長時間のテストとなりますので、毎回トイレ休憩を1回は取り、気分をリフレッシュさせることにしていました。ただ、最後にFARを受験した際には時間に余裕がなかったため、4時間通して問題を解き、疲労困憊だったことを覚えております。事前に試験の時間配分をじっくりと考えて臨むことも重要かと思えます。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

理論的な学習が実務面に確りと繋がっていると感じております。例えば、実務において監査法人対応を行う際に、学習前はなぜ監査法人の先生方が細かいポイントまで回答を求められるのかが理解出来なままでしたが、今は先生方の意図を汲み取った上で対応を行うよう心掛けております。また、ライセンスホルダーでなくとも全科目合格のアピールが出来れば、周りからも一定の知識は身に付けていると理解されることで信頼を得られているのではないかと思います。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

私はREG・AUDにつき何度も受験し最後は辛うじて合格出来た立場のため受験生の皆様に偉そうに言える立場ではありませんが、最後は何事も気合や執念かと思えます。正直、4・5回不合格となった際は心が折れかけ何のために時間をかけて勉強しているか見失った時期もありました。それでもめげずに学習を続け合格を目指した理由は、やはり学習を始めた当初の想いや今後のキャリアについて真剣に考えたこと、また周囲の方々のサポート・応援があったからこそです。

当初の学習開始から約6年もかけて合格まで辿り着いたのは、合格者の中では物凄く遅い方かもしれません。ただ、こんな何度も落ちた私でも合格できたのは、何が何でも絶対に合格してみせると言う執念・気合で最後の努力を続けられたことが大きいと思います。何度不合格でも諦めず努力を続ければ必ず合格に繋がるはずで、皆様の努力を陰ながら応援しております。



モチベーションの継続が鍵！

T.T さん

1985年生まれ
筑波大学 2007年度卒
勤務先：国内製造業 財務部門勤務
中小企業診断士2012年度合格

2017年3月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：80点（2015年11月／1回目）、BEC：81点（2016年11月／2回目）

REG：86点（2017年3月／4回目）、AUD：76点（2017年3月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

米国の関連会社での実習を経験して米国でもっと働きたいと強く思い、現地で相談したところ、CPAの取得を勧められたためです。また、勤務先の海外売上高比率が60%を超え、関連会社の半数以上が海外会社という状況の中で、自身の専門性と意欲的な姿勢を勤務先にアピールするのも有用だと考えました。

今後のキャリアを考える上で、社外に対してもアピールできる資格が欲しかったこともあります。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記一級（2011年）、BATIC Subject1:354点（2010年）

英語知識：TOEIC®L&R TEST 770点（2014年）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

中小企業診断士の資格を取得する際にもTACを利用しており、無事に合格できて縁起が良かったことと、システム等の勝手がわかっておりストレスなく始められるため。他にも、都内に校舎が多数あり、自習室として活用しやすいためです。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

REGがなかなか結果に繋がらなかったため焦りましたが、内田講師、杉浦講師お二方の講義はとても熱意を感じ、長丁場となった学習期間においてモチベーションを維持するのを大いに助けてくれました。

教材は日本語メインで書かれており、問題の解説に対してもだいたい日本語の説明が付け加えられているため理解するのに助かりました。

また、受講生サイトや相談会で、資格要件の取得、出願や試験手続き等の疑問点を解消できたので、非常に心強かったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信（14年10月本科生）、FAR、REGは一部教室講義にも参加。

2年半（FAR:2014/10-2015/11、BEC:2016/6-11、REG:2015/6-2017/3、AUD:2017/1-3）

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

早期合格を目指して2科目を並行して学習していましたが、学習時間が十分に確保できず、かえって非効率になって結局REGを4度も受験することになりました。1科目ずつ集中して合格を積み重ねていくのが結果的には早道だったと思います。

全体：最初は教室講義に合わせて週末講義+平日問題演習を行っていましたが、次第に通学時間が確保出来なくなったため、空いた時間を見つけてDVDを倍速で見る、問題集を解く、テキストを読む、間違いノートを作る、Becker問題を解くといった方法にしま

した。特にBecker問題はスマホやタブレットで解くことができるため、間違いノートと共に隙間時間での復習に活用しました。

FAR：教室講義に合わせて学習を進め、簿記等で学んだ日本基準との差異と、まったく新しく学習する公会計に特に集中しました。講義→TAC問題集（全問）→TAC問題集（誤答）という流れで学習を行い、単位要件を揃えるため試験日まで日にちが空いてしまいましたが、試験前に再度誤答した問題のみ解きなおして対応しました。

BEC：用語の馴染みの薄いITと他教科に関連する個所の多いCGに特に注力しました。基本はテキスト精読→TAC問題集、そして隙間時間にBecker問題を解きました。1度目の受験はWCが不十分で73点で不合格となったため、対策として総まとめテキストの英文を読み直し、試験同様に紙とPCを用意して解答手順を確認しながら演習を解き直しました。

REG：4回受験しました。1・2度目の受験の際は教室講義に合わせて厳選問題集を1周し、あとは直前対策まとめを精読していましたが点数が伸びませんでした。これを反省し3・4度目の際はDVD講義を1から見返した後、厳選問題集とAICPA過去問5年分を直前対策まとめに書き込みながらそれぞれ3回転しました。BLは講義で指摘されたAランク論点のみTAC問題集とBecker問題を解きました。

AUD：DVD講義→TAC問題集（全問）→テキスト精読→TAC問題集（誤答）→Becker問題という流れで、TAXの反省を踏まえテキスト精読と問題演習は3回転しました。AUDはテキストの分量は他の3科目より少ないのですが、文章を読み解く力が必要となるため、何をどう読み違えて誤ったのかを、より意識して間違いノートを作成しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受講生サイトのおかげで、特に問題なく手続きは済みしました。

試験当日は予約時間より多少早く行っても受付してもらえらるで、前倒して試験を開始させてもらえました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

日本以外の国の会計を深く学んだことで、海外子会社と対応する際に日本における考え方のみを基準とすることなく、柔軟な考え方ができるようになりました。

また、監査人とのやりとりにおいて、相手側の立場が幾分理解できるためスムーズに事が進められるようになっています。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

多くの合格者の方が指摘されていますが、社会人の方は特に学習時間の確保が問題になると思います。私も日に日に学習時間の捻出が難しくなる中で、REGの3度目の試験結果が74点で不合格だったときは流石にもう勉強を辞めようかと思いました。しかし、なぜこの資格に挑戦しているかをもう一度思い返し、自分を奮い立たせてなんとか勉強を続けました。

学習時間を捻出し、その限られた時間内に集中して知識を蓄えること、そしてそれを継続することは容易ではないと思います。挑戦を決めた時の想いや合格後の姿を思い浮かべ、時には合格体験談等に目を通してモチベーションを高め、目標に向かって挑戦していたらと思います。



U.S.CPA合格体験記

渡辺 健太 さん

1983年1月生まれ
東京大学 2005年卒業
勤務先：資産管理会社
CFA®協会認定証券アナリスト、
日本証券アナリスト協会検定会員

2017年3月 USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：90点（2016年11月／1回目）、BEC：87点（2016年12月／1回目）
REG：81点（2017年2月／1回目）、AUD：75点（2017年3月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

仕事で資産運用（主に米国株）を行っています。現地情報のより正確な収集を行うために、体系立てた会計の知識を取得しようと思いました。

日本株より層が厚い米国株の運用を行っていくためには、より詳細な会計の知識が必要であり、それらを取得することによって、日本で運用しているという地理的に不利な状況も克服できるのではと思いました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：仕事で財務分析を行っていますが、会計や簿記等を体系立てて学習したことはありませんでした。

英語知識：以前CFA®を取得した際に、一緒にTOEICを受験して910点を取得していましたが、CPAの勉強を始める時には、かなりブランクがありました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

渋谷校が家から近かったからです（笑）。最初は独学で受験しようと思い、米国から自分で教材を取り寄せたのですが、結局、手付かずで終わってしまいました。「ちゃんとやろう！」と思った時に、会計を学習するなら、大手で安心感のあるTACだと思いました。通信で申し込んでも、フリーパス制度を使えば、通学と両方で学習できるのも魅力的でした。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

日本の会計士講座のノウハウもあるため、単に試験の合格のためだけではなく、会計を体系的・網羅的、かつ詳細に学習できたところが良かったです。

Beckerの教材があるため、英語のみでも学習することができ、TACの教材にある日本語とBecker教材の英語との対応を確認しながら勉強できたのも良かったです。

Beckerのオンライン演習ソフトは、すきま時間で活用することができて、とても便利でした。

講義の中で講師が資格取得後の話を色々としてくれたのも、モチベーションの維持につながりました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

申込は通信でしたが、フリーパス制度を使って、試験の計画に合わせながら両方を織り交ぜて受講しました。DVDと通学で講師が違ってもありましたが、切り口の違いもあって良かったです。学習開始から合格までは1年半くらいでした。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

下記Q7に記載したようなトラブルが出願時にあったおかげで、最初のFARは勉強時間を多めに取ることができたので、講義を視聴してから、TACの問題集とBeckerの問題をSimulationも含めて数回繰り返ししました。

本試験では思ったよりも得点することができたので、そこまでやらなくても大丈夫なのではと思います。次の科目からは、講義（通学・DVD）を聴いた後に、TAC問題集を1回、Beckerを1回だけやるようにしました。間違えた問題のみもう1回解答して、TACのテキストと紐付けを行って、理解を深めるようにしました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

本試験の出願時に、米国の事務局から、必要書類が届いていないとの連絡があり、やりとりをしている間に、予定より2ヶ月以上、受験開始が遅れてしまいました。

結果的に、最初の受験科目であるFARの学習時間を多めに取ることができたので良かったのですが…

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

財務諸表の読み方がかなり変わりました。粉飾等、問題がある会社でゆがみが出るようなポイントがわかるようになりました。

以前、証券アナリストの勉強（企業分析）をした時には、あまり深いところまでは学習しませんでしたので、なんとなくの理解でしたが、今回の学習で、「利益の出る会社の仕組みはこうなっている。」といったところを、しっかりと理解することができるようになったと思います。

また、日米の考え方の違い（メンタリティーの持ち方）が非常に参考になりました。

例えばですが、税務申告の際に、日本では、いわゆるグレーゾーンと呼ばれるような項目については、争いになった時に、勝てる確率が高くない場合には、納税者もあまり強気の申告はしないかと思いますが、米国では勝てる確率が半分以下の場合であっても、攻めの申告を行う納税者が多いと聞いて、自身の今後の考え方に影響を及ぼすのではと思いました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

最初、スケジュールを作成する段階で、単位試験や受験手続の仕組みについても、しっかり確認しておいたほうが良いと思います。

例えば、単位試験は、初級の科目に合格した後でないと、中上級の科目を受験することができないこと等を、初めの段階から理解していないと、後で受験のスケジュールを変更することになり、モチベーションに影響してくる可能性があります。

また、どうしても、講義のタイミングと本試験のタイミングとがずれてくることがありますので、そういった意味でもスケジュールはしっかり行っていたほうが良いかと思っています。フリーパス制度が利用できるのであれば、上述のように、通学と通信を織り交ぜるようにすると、講義のタイミングと本試験のタイミングが合わせ易いかと思います。

本試験受験のタイミングとしては、一通り4科目の講義を受けてから受験していくのもいいかと思いますが、講義が終わった段階で、1科目ずつ受けていくのもいいかと思っています。お仕事が忙しい人が多いかと思いますが、少しでも間が空いてしまうと、せっかく学習した内容を忘れてしまったり、モチベーションも下がってしまうかと思っていますので、ある程度一気に、なるべく短期集中でやったほうがいいと思います。



限られた時間で効率よく勉強すること、最後まであきらめないことが大事

金 智潤 さん

Ewha Womans University (Seoul, Korea)
勤務先：外資マーケティング会社
ファイナンス

2017年3月 USCPA試験合格（ニューヨーク州）
FAR：92点（2017年3月／1回目）、BEC：84点（2016年5月／1回目）
REG：87点（2016年8月／1回目）、AUD：81点（2016年12月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

ファイナンスでキャリアを積んでいく中で、大学の専攻、職務以外に客観的に能力が証明できて、グローバルで通用する資格が欲しくてU.S.CPAにチャレンジしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級
英語知識：TOEIC®L&R TEST 990点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

2社ほどで迷いましたが、Beckerの教材を使っていること、TOEIC®L&R TEST の点数で割引がきいたこと、DVD受講期間が終わってからのフォローも充実であることを考慮してTACに決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

DVD通学でしたが、自分でスケジュールが組めることと、自習室が使えたことがよかったです。
教材ですが、日本語テキスト+Becker+Final Review テキストの組み合わせがすごくよかったです。最初の理解のため日本語のテキストを利用し、試験直前にはポイントがまとまっているFinal Reviewテキストを使って復習して、もっと深く理解したい点や、英語の表現で迷うときはBeckerの本テキストを参照しました。
また、Becker Onlineソフトは通勤時間、外出している時間などにスマホで問題を解くこともできたので、時間の有効活用に役立ったと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通学15か月+AUDを延長して6か月、合計21か月
受講開始から最終合格まで約2年3か月ほどかかりました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

DVD通学の受講順番：FAR>BEC>REG>AUD
受験順番：BEC>REG>AUD>FAR
全科目、問題集とBecker Onlineソフトを繰り返して解くことで、理解が足りない部分の知識を埋めていく流れで勉強しました。受験日が近くなってきたからは、通勤時間、ランチ時間、仕事終わってからの時間を最大限活用できるように工夫しました。Becker Onlineソフトは携帯でも使いやすいので、通勤時間の活用に役立ちました。
BEC：大学で経営学専攻だったこともあり、基本的な内容は大体理解していたので、細かい内容の暗記とEssayの準備を重視しました。
REG：内田先生の講義でも強調された通り、丸暗記よりは「理屈」を理解することに注力しました。最後は直前対策の資料に難しい／わからないところを書き足して繰り返して復習しました。

AUD：文章の意味が理解できずに間違えてしまう問題が多かったです。同じことも異なる表現になると迷ってしまうため、一回間違えた問題から、わかりにくい表現を集めてリスト化して覚えめました。そのためAUDの場合は英語の表現を理解、暗記するためBeckerの本テキストも参照しました。Simulation対策としてAudit Reportを集中的に読みまわしました。

FAR：日本語のテキストをすべてレビューするには時間が足りなかったため、TACのFinal Reviewテキストをざっと1回読み、ひたすら問題を解いて、理解が足りないところを把握することから始めました。また、受講から1年以上も経っていたので、GAAPに改正があったりしたトピックもあり、テキストだけではなく、インターネットなどでリサーチも必要でした。もし受講から受験まで間が空いてしまう場合は、この点に注意されたほうが良いと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

私は韓国で大学を卒業していたこともあり、書類を取り寄せるにもいろいろと面倒なことが多かったですし、途中でNIESとCPAESの間でもトラブルがあり、成績評価手続きにとても時間がかかりました。やっと1科目目の受験に準備ができたときにスケジュールなどを考えてNIESへ成績評価依頼を出しましたところ、無事に成績評価が終わってCPAESへすべての書類送付が終わったと連絡をもらったにも関わらず、大体の所要期間という2週間が過ぎてもNTSが届きませんでした。メールで問い合わせたらCPAESの方では評価結果を受け取っていないなどの回答があり、またNIESへ連絡しその旨を伝えてもしばらく連絡が来ないので最後は担当者のメールアドレスを全部入れて怒りのメールを送ったりもした結果、成績評価終了から2か月後にやっと1科目目のNTSが届きました。2か月の間、このまま成績評価が終わらなかったらどうしようという不安と、スケジュールが後押しになっていることに対する焦りで、勉強にも集中できなくなり、とてもストレスを感じた覚えがあります。ほとんどの方は問題なくスムーズに手続きが終わると思いますが、もし何かトラブルがあった場合は、自分から積極的に向こうの人たちをプッシュする必要があります。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

仕事が変わってないので、目に見える変化はありませんが、社内での異動などのときにアピールできるポイントが増えたのは間違いないと思います。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

早い段階で受験日を設定してそれを目標に集中して勉強することをおすすめします。特に社会人の方々は勉強の時間を見つけるのが大変だと思いますが、通勤時間、ランチ時間などを有効に活用して効率的に勉強することが大事だと思います。
モチベーションが下がってしまった時には、自分がなぜこの勉強を始めたのかを思い出すと、最後まで頑張れる原動力になると思います。



スマホで短期合格

H.Y さん

勤務先：大手税理士法人
税理士(日本)

2017年3月 USCPA試験合格(アラスカ州)

FAR：91点(2016年11月/1回目)、BEC：78点(2016年12月/1回目)

REG：82点(2017年2月/1回目)、AUD：86点(2017年3月/1回目)

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

業務上、米国の会計・税務の知識が必要となったことをきっかけとして、将来の海外勤務に向けて有益な資格だと思ったのでチャレンジしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士

英語知識：TOEIC®L&R TEST 900点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

教材が充実していると感じたからです。

Q4 TACの講座でよかったところ(講師、教材、カリキュラムなど)

まとめ教材とBeckerオンラインの問題演習が良かったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通学で学習しました。学習期間は2016年10月から2017年3月までの約6ヶ月間です。

Q6 合格までの学習法(全般的なこと/科目別)

(全般)

1科目ずつ勉強して受験しました。学習は全科目とも次のステップで行いました。

- ① DVDをできるだけ短期間で一気に視聴
 - ② BeckerオンラインのMC問題をすべて解いて、解説を読む
 - ③ 解説を読んでも理解できないところをTACテキストで復習
 - ④ 間違えたBeckerオンラインのMC問題をもう一度解く
 - ⑤ 正答率が100%になるまで③、④を繰り返す
- ※TBSやWCの対策はしませんでした。

オンライン問題はすべてスマホで解いたので、場所や時間を選ばず勉強でき、働きながらでも毎日しっかり学習時間を確保できました。

(FAR：1科目目)

約2ヶ月間勉強しました。公会計の分野は全く知識のないところからのスタートでしたが、テキストを熟読して理解を深めました。問題演習もほとんどの時間を公会計に割いていました。学習範囲が広いので、自分の不得意な分野を集中的に学習して、効率よく苦手を克服することが大事だと思います。

(BEC：2科目目)

約1ヶ月間勉強しました。管理会計以外のコーポレートガバナンス・経済・ITの各分野は体系的に学習したことがなかったですが、教材がコンパクトにまとまっているので、あまり苦になりませんでした。この科目は真面目に勉強すると範囲が広く、すべてを学習するのはかなり大変だと思いますが、試験対策としてはテキストとBeckerオンライン問題で十分だと思います。

(REG：3科目目)

約2ヶ月間勉強しました。米国税務に関連する仕事をしていたので、スムーズに勉強できました。ビジネス法は少し暗記が必要ですが、税法は基本のコンセプトを抑えれば試験問題に対応できると思います。全科目の中でこの科目のテキストが一番良かったです。

(AUD：4科目目)

約1ヶ月間勉強しました。初めて学習する内容でした。授業のペースがゆっくりで、テキストの内容もあまり相性が良くなかったため、途中でDVDの視聴をやめて、Beckerオンライン問題のみで挑みました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

TACの受験生サイトに受験手続について詳細が掲載してあるのでとても役に立ちました。本試験で問題を最後まで解き終わってから、TBSの解答の確証を得るために検索機能を使って条文を調べていた時に、PCがフリーズしたことがありました。焦りましたが、係員の方が丁寧に対応して下さいましたので良かったです。結局、フリーズした時点の解答は無事で、試験時間もフリーズした時点から止まっていたので、ロスはありませんでした。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

仕事の一部に米国の会計・税務に関連する業務があるので、勉強したことが直接役に立っています。実務で扱う内容の方が難易度の高い複雑な内容ですが、基礎が分かっていることで正しく理解して進めることができるので、勉強して良かったです。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

勉強した分だけ結果が出る試験だと思います。長い期間モチベーションを維持するのは大変だと思うので、通勤電車の中でスマホを使って問題を解くなど、時間を有効利用して、できるだけ短期間で合格を目指してみてください。

U.S.CPA誕生



A.A さん

勤務先：外資系企業

2016年11月 USCPA試験合格（アラソカ州）

FAR：77点（2016年11月／3回目）、BEC：75点（2016年2月／5回目）

REG：78点（2016年5月／2回目）、AUD：76点（2016年9月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

U.S.CPA資格を持つ上司のすすめです。また社内にはU.S.CPA資格保有者が多く、実務を遂行する上で必要となる英語力の向上には最適なトレーニング機会であると考えました。またこの資格は欧米諸国を中心に世界的にも有名な資格であり、同時に高い評価を得ているとのこと、日本国内に限定された資格試験に比してもより有効、有用であると聞き及び、その結果この客観的な証明は、今後のキャリア形成においてあっても損はないであろうという判断を行いました。この3点を主たる理由として、仕事と家庭との両立であるという困難さは承知の上、十分な覚悟を持ってチャレンジしよう決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：事業会社経理実務経験15年程度
英語知識：業務で日常的に使用する程度（海外とのメール、読み書きが中心）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

他校に入学したのですがあまり理解が進まず迷走していました。最初の受験日直前にどうにかならないものかとTACの直前対策講座（FAR）とBecker教材（FAR）を購入してみたところ、Becker教材及び小泉先生の講義に感銘を受け、「これなら道が開けるかも！」と思ったことがきっかけです。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

なにはさておき、まずBeckerです。長年の会社人生の中で様々な研修、トレーニング教材等を利用してきましたが、このBecker教材（online）のような完璧ともいえる優秀な教材は見たことがありません。U.S.CPAの長い学習期間の中でほぼすべての学習教材（洋書）に目を通しましたが、設問回答の解説が最も丁寧なのがBeckerでした。

習熟度を上げるポイントになりますが、MCでもTBSでも正答の理由は重要ですが、それ以上に重要なのは、自分が正答を選択した場合の理由だと思っています。なぜその回答を選んだのか、なぜそれが正答にならないのか、正答との違いはなんなのか、これを徹底的に追及して自分がたどる思考プロセスを、問題演習を通して修正していかなければなりません。

Beckerでは4科目で7000題近くある問題の殆どと解説に詳細な説明を与えています。なかには問題文の3倍、5倍の文章で精密に解説を与えています。この徹底した解説を、自ら読み込むことによって誤っていた思考プロセスを修正することができました。他の教材では、正答の理由は記載されているが、誤答の理由は省略されているものも多く、これでは理解が曖昧なまま先に進んでしまうことになりかねません。そのためと正答へのロジックは一時的に暗記されるが、思考プロセスは修正されなかったため、試験本番では角度を変えられた問題に対応できず、またひっかけ問題にはひっかけり、見事CFAILとなってしまいました。

そしてTACです。この完璧ともいえるBecker教材を、英語を母国語としない日本人向けに、巧みにアレンジすることによって正確な英文解釈、明快な日本語解説を与えています。まさにファンタジスタ。これをアレンジできるのは長らく日本の法律会計事務所分野で資格業界のトップを誇ってきた優良企業、一流企業であるからだと思います。

講師の先生方もみな丁寧で講義も大変わかりやすく、一切妥協をしない、企業のプライドにかけて必ず受講生を合格へ導く、という熱い姿勢を明確に感じることができました。

サポートも大変充実していました。質問コーナーでは期待を裏切らない明快かつ適切な回答を書面で準備していただきました。試験の区切りにはいつも阿辺先生にカウンセリングをお願いして、きめ細かなアドバイスをいただきました。

TACは本当に素晴らしい学校だと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信です。最終合格まで5年近かったです。TAC受講を起算日とすると3年ほどになると思います。

Q6 合格までの学習法（一般的なこと／科目別）

（全般）

Becker教材（online）を中心に学習していました。まずはTACのテキストを学習、講義を一度視聴しました。その後はTACの学習指導の通り、Becker（online）のMC問題演習（オプションを除く）を累積正答率90%以上になるまで繰り返す。各単元の間にTBSも必ず行う。試験1週間前からはProgress Testでランダム30問を毎日複数回行いました。ここで平均80%（BECは90%）の正答率が出せるように繰り返すと、試験本番ではscore75を超えるようになっていました。結果的にBeckerを3~5回転じたことになると思います。

（科目別）

FAR：1度エクスパイア（合格の有効期限切れ）してしまったので2度受験しました。この科目は仕事で常時使用していることもあり、理解に苦しむことは少なかったのですが、1度目はBecker教材（英文のみ）とTAC直前対策（和英）で合格してしまいました。Bonds&Leases、現在価値への割引計算、2年目3年目の仕訳がよく出るにもかかわらず理解に苦しむ論点であったと記憶しています。小泉先生の講義を視聴してよく理解することができました。2度目はテキストが古くなっていて最新のTAC教材を購入しました。この時気づいたのですが、特にこの科目はTACのテキストと問題解説はともかなりやすかったです。最初から購入しておけば無駄な時間を省けたような気がして後悔しています。講義はすべて視聴する時間がなかったため、自分の弱ところだけを見て視聴しました。その時の講師は宮崎先生でしたが、またとてもわかりやすく、すべて視聴する時間があればよかったのにな、と後悔しました。政府会計、NPQとつながりやすいですが、内容はさほど難しくはなかったと思います。内田先生のおかげで素晴らしく収まりがよかったので、これをベースに問題演習を繰り返して合格レベルまで引き上げることができました。

BEC：最も苦戦した科目でした。学習期間が長引いた原因、また他の科目の受験回数の増加、エクスパイアの原因となつたのもこのBECでした。そのポイントはWC（英作文）の配点15%になると思います。

MCを徹底的にやりぬいて平均90%以上の正答率が出せていても、試験本番ではなぜか毎回最低74以下しか出せずに連続してFAILしていました。もうこの試験は絶対に受

からないのではと思ひこみ、これで最後としようと覚悟を決めて受験したら合格できませんでした。運が良かったと思いません。WCはよい対策が思いつかず、毎回きちんと回答できていなかったと思います。最後の受験では少し時間を多めにとって、特に結論部分を厚めに英文化したと思います。

MC対策としては他の科目同様TAC教材が試験範囲を網羅してしまっていたので、理解に苦しむことは少なかったと思います。MA/Fin/OMは阿辺先生のおかげで素晴しくなりました。重要なところをピンポイントで、まさに「Flash」です（トップスピードで右サイドからピンポイントクロスが入ってくるのでこちらは合わせるだけです。ただ若干高めに入ってくる時もあるので、上体を倒して気持ちよく合わせるのがベストかと思ひます）。これを参照しながら問題演習を繰り返して、適宜TAC教材へ戻る、というステップを踏んで合格レベルに引き上げることができました。CGとITとECOはつかみどころがないのですが、試験範囲が決まっていると思うので割り切ってBeckerの問題を繰り返してほぼ全問覚えてしまおう対策で合格レベルへ引き上げることができました。

AUD：英語力（英文読解、英文解釈）が最も試される試験だと思います。この英語は本当に難しいと感じました。TAC教材と小泉先生の講義がとてもわかりやすくまとまっており、これは日本の監査論をベースとしてよく完成されているものではないかと思ひます。個人的には、暗記がない（少ない）科目で計算問題は少なく、ほとんどが理論問題ですので対策は立てやすく、学習中に苦痛を感じることは少なかったと思ひます。しかし、いざ設問となると英語が難しく、論点を理解している英語の読み違いで回答を誤るパターンが最も多かったと思ひます。なので、ひたすらBeckerを読み込んで独特の英単語、表現に慣れ親しむという対策で合格レベルへ引き上げることができました。またこの科目は単語帳を作成し電車移動時間などでも常に眺めていました。

REG：税法（TAX）と商法（BL）が合体して2科目となっているので別々に対策する必要があります。

TAX：法人税は仕事に関連する部分が多く理解に苦しむことは少なかったのですが、個人所得税やbasisは本当に苦しみました。最初は、内容が細かすぎて泣きそうになりました。内田先生のおかげで素晴しく収まりがよかったのですが、そもそも暗記要素が強く苦手意識が強かったため、別途自分でもまとめノートを作成しました。といった問題演習で讀いた内容を簡潔書きに自分が理解、暗記できるようにTAC教材を使って自分なりに編集したもので、A4用紙で30ページほどになりました。作成には少し時間がかかりましたが、これを内田先生のノートと一緒にしてひたすら読み込んでいくことで、結果的には最短期間で合格レベルまで引き上げることができました。

BL：TAX同様に範囲がとても広いと思ひましたが、最近の傾向として出題範囲は限定的なようで、これをTACが「A論点」としてピックアップしてくれているので、対策は立てやすかったと思ひます。杉浦先生の講義がとてもわかりやすく、すべて視聴することになりました。試験対策のみならず、このBLの内容は、仕事や実社会においてとても役に立つ内容であると思ひましたから。杉浦先生の「この試験は詐欺が大好きです！」というフレーズがとても印象深く心に残っています（もちろん詐欺を推奨している訳ではなく、詐欺行為に対して強力な注意喚起が必要であるという試験のメッセージ）。また講義も素晴らしく大変勉強になりました。BeckerのMC問題演習でA論点のみに絞ればほぼ全問覚えてしまおう対策で合格レベルへ引き上げることができました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

手続きは特にトラブルはありませんでした。TACのマニュアル通りに進めていきました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは？

当初の目的通り英語力の向上です。学習後は業務上取り扱う海外からのメール、英文書（規定や契約書など）の内容を理解し対応するスピードが格段に速まりました。また最も重要なことは、IFRS、米国基準にして海外の会計基準等を英語の原文のまま自分で読める、理解できる、その下地を養うことができたことだと思います。この「自分で」原文を理解できることが重要なことです。業務上重要な判断が必要な場合に、きちんとしたロジックを自ら構築することによって結論を出すことができます。そのためにも、英語力が高いというだけではおそらく難しく、これまでの実務経験+U.S.CPAの4科目の学習内容全てがバックグラウンドとなり、より強力に理解を推進しているものと思います。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

私が考えている合格までのポイントは3つあります。1つ目は学習方法です。しっかりと教材を使用することが重要だと思います。学習を検討している方から私が相談を受けた場合、外国人にはBeckerを、日本人にはTACを推奨しています。2つ目は時間です。学習をされている方のほとんどが社会人ではないかと思ひます。その場合やはり仕事や家庭との両立が最大の壁になると思ひます。どのようにして学習時間を割り当てるか、1日24時間×365日×年数の計算式の中で、セルフマネジメントがポイントになると思ひます。私の場合、隙間時間を積み上げて、というやり方ではどうしてもPASSできなかったため、後半からは時間管理をより徹底しました。そのためには周囲の協力は不可欠ですので、自分の考え、行動を十分に理解してもらう必要があります。3つ目は最後までやり遂げるという強い信念です。この試験は知識と理解、英語力が「一定」の水準を超えると必ず合格できると思ひます（本来の資格試験とはそういうものだと思いますが）。ただし「一定」といってもその水準は絶対に高く、相当な学習量が必要になりますが、でもそこまで辛抱です。ただ一部は絶対に落とさずにはいけない論点もあるのでそこは徹底的に勉強することが重要です。またエクスパイアの制度があるのでスピードとのバランスも重要です。（合格はscore75以上）

しかしながら、特に時間との兼ね合いで、なかなかPASSできずに苦しんでいる方も多いのでは、と思ひます。私の場合、当初は合格を急いでいましたが、思うように学習時間が確保できないので気持ちがすずつと焦ってしまいました。ある時から、これでは無理だと気付いて、時間が無いのなら「5年10年承知！」2度3度のエクスパイアも承知！」と聞き直して長期戦へと気持ちを切り替えました。その後のほうが精神的にも落ち着いて学習が進み、結果的には早くに合格することができました。（もちろん早くに4科目PASSできればそれが一番良いのですが、周りを見渡しても現実的にはそう簡単ではないと思ひます）

また時間はある程度確保できても、学習に苦痛を感じている方も多いのでは、と思ひます。私の感想ですが、合格までの学習期間は、世界で戦うために必要となる強靱な肉体を作り上げるための、いわば「筋トレ」です。そう簡単に身につくものではありません。そう思えば苦痛からも脱却できると思ひます。

「U.S.CPAの誕生、誠にありがとうございます！」。全科目合格後に友人・先輩から数々のお祝いメールをいただきましたが、その中でも最も印象深かったのがこの言葉です。自分の合格によってまた一人この世にU.S.CPAが生まれたのだ、と改めて納得しました。

これから合格を目指す方が、BeckerとTAC教材を使用することによって一人でも多くの日本人U.S.CPAが誕生されることを心より祈念しております。

「戦略的に試験に臨もう！」



T.M さん

2017年1月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：75点（2015年10月／2回目）

BEC：80点（2016年12月／2回目 ※2回目は合格失効によるもの）

REG：76点（2016年10月／2回目）、AUD：75点（2017年1月／5回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

メーカーの内部監査部門に勤務しておりますが、マネージャーへの昇進を機に、より高い品質の監査を提供するためにU.S.CPAへトライすることにしました。また将来、より高いポジションに就くことも想定した場合、U.S.CPAの資格が差別化要因になると考えました。更に、既に取得していた中小企業診断士や公認内部監査人資格と学習項目でオーバーラップする部分も多く、比較的短期間で取得できるのではないかと、との皮算用もありました。（結果的には、その皮算用は大きく外れることになりましたが...）

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級、ファイナンシャルプランナー2級、中小企業診断士、公認内部監査人などです。海外の監査にも従事することから、ある程度の英文会計知識も有していました。

英語知識：TOEIC®L&R TEST 960点（平均的には920点程度です）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

①U.S.CPAの世界で実績あるBeckerと提携している点 ②U.S.CPA講座が教育給付金制度の対象となっている点 ③公認内部監査人資格をTACで受講し合格できた点 ④通学・通信・DVDなど受講形態が充実しており、どのような環境変化（仕事上の繁忙や転勤など）においても、諦めずに勉強が継続しやすい点などが決め手となってTACに決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

まずは、科目ごとに「最適」と思われる講師を配置している点だと思います。その科目を知り尽くし、その科目の合格のために日々カリキュラムや副教材などを練り直していらっしゃる講師陣は本当に素晴らしいと思います。その中でもREGの「直前対策まとめ」は秀逸で、この難解な科目を2度の受験でパスできたのは本当に「直前対策まとめ」のお蔭だと思えます。コンパクトな中身に合格に必要なことが全て網羅されていると言っても過言ではないと思います。

また、ライブ講座では日本人のみならず、中国やベトナムの方も受講されており、国際色豊かでした。日本語で受講するという点では日本人よりも不利と考えられる外国人でも頑張っているのだから「私も頑張らないと！」という気持ちになり、モチベーションの維持にも繋がりました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学・通信のコンビネーションで学習しました。FAR、BEC、REGの途中までは通学中心でしたが、AUDは出張続きの時期に重なり、通信中心での学習となりました。2014年の1月に学習を開始し、最後に合格したAUDを受験したのが2017年1月でした。

FAR2回、BEC1回、難関のREGも2回でパスでき、ここまではほぼ計算通りだったのですが、考えもしなかったAUDで躓き、結果として5回も受験する羽目になりました。私は内部監査の仕事をしてきたことから「AUDは1回でパスできるもの」と高を括っていたのですが、何度受験しても判を押したようにスコアは70点で、本当に心が折れそうになりました。学習時間は余り把握していませんが、おそらく合計で2,000時間はかけたと思います。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

講義をライブかオンライン（Web）でひと通り聴いた後、まずはTACの問題集を解きました。その後、オンライン版Becker問題にて

きるだけチャレンジし、特にBECやAUDは、ほぼすべての問題が解けるようになるまで繰り返しました。結果的には、この学習方法で大丈夫だと思いますが、AUDについては「英文解釈を正しく行う」ということが非常に重要になります。日本語ベースで書かれたテキストを覚えるだけでは「英語で問われた際」の対応は不十分になりがちで、できるだけ「英語で覚える」というようなアプローチが必要だと個人的には感じています。AUD以外はそれ程英語力が必要と感じたことはなかったのですが、AUDはある意味「英語による国語のテスト」に近く、英語力に磨きをかけることがこの科目の合格に近づくためには必要です。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続はとにかく面倒ですが、TACの受講生情報サイトや先生方への質問を通じて何とか対応できました。この面倒極まりない受験手続きは、実は学習に入る前の大きなハードルだったりします。もし独学の形式を取っていたなら、この手続きの段階で挫折したかも知れません。

受験時のエピソードですが、前述の通りAUDが何度受験しても70点でした。送られてくる受験結果も、マルチプル・チョイス（4択問題）パートの多くがWeak判定で、シミュレーション（ケーススタディ）はMedium（合格者平均レベル）か、時にはStrong（合格平均よりも高い）の時もありました。とにかく、マルチプル・チョイスのパートを攻略することができなかったのです。そこで5回目の受験の際に、思い切って受験戦略を変更しました。それまでは、難解で時間のかかるシミュレーションに時間を確保するために、マルチをできるだけ短時間で切り抜けるようにしていたのですが、5回目の試験では、いつもより30分程度多くマルチパートに時間を割き、設問・問題を熟読することにしました。結果的にはこの戦略が奏功し、ギリギリではありましたが何とかパスすることができました。恐らく、4回目までは設問・問題の読み込みが不足し、しっかりと題意が把握できないまま、あるいは勘違いをして回答している問題があったのではないかと、と今になって思います。もっと前に気づいていれば、ここまで時間を要することもなかったのではないかと反省しています。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

まずは監査というものの本質が分かるようになり、担当している内部監査の品質向上に繋がっているということです。また社内でも「USCPA合格者」ということで、存在感や認識度が高まった気がします。更には、上司・部下や監査先のマネジメントからの信頼も高まり、仕事がしやすくなったと実感しています。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

はっきり申し上げますが、USCPAは易しい試験ではありません。いずれの科目も40%から50%程度の比較的高い合格率が独り歩きし、「誰でも簡単に取れる資格」と誤解を与えるような情報が氾濫しているようですが、もちろんそんなことはありません。英語が母国語ではない日本人が、全ての科目で75点以上を18か月以内に獲得するというのは、想像以上大変なことです。このシステムでは、苦手科目を得意科目でカバーできない点に辛さもあります。

一方で、日本の資格試験に有りがちな「重箱の隅を突つつく」ような悪問は殆ど出題されず、しっかり腰を落着けて学習すれば最終的にはパスできる試験です。甘い考えは捨てなければなりません。しっかりと準備と戦略、そして「忍耐力」があれば、あなたもきっと合格を掴み取ることができます。頑張ってください！！



インプットに自信がなくても、意外に解ける本試験問題

楓 元宏 さん

1976年6月生まれ
法政大学 経営学部 経営学科 2000年3月卒業
勤務先：製造業
2013年10月より、経理としてアメリカ出向中です。
(英語は得意ではありません)

2017年3月 USCPA試験合格 (AK州)
FAR : 79点 (2016年12月/1回目)、BEC : 83点 (2016年10月/1回目)
REG : 78点 (2017年3月/2回目)、AUD : 80点 (2017年2月/2回目)

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

日本の社長が米国子会社へ訪問されたときに「U.S.CPAとるんだよね？」とおっしゃり、真に受けたわけではありませんが、それがきっかけでした。それほど難しい試験ではない一方で合格実績は大きなプラスになると考えたこと、費用対効果が大きいと考えたこと、また英語学習の一環として挑戦しようと思ったからです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記検定1級 (1999年)
英語知識：TOEIC®L&R TEST 535点 (2013年アメリカ赴任前)

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

教育訓練給付金制度があったこと。知名度があったこと。

Q4 TACの講座でよかったところ (講師、教材、カリキュラムなど)

テキストや講義内容を他校と比較することはできませんが、内田先生の講義、TAXの直対まとめ、杉浦先生の講義はおすすめです。通信受講生としてありがたかったのが、質問メールに対する回答が早かったこと、またその内容が充実していたこと。講義の内容にとどまらず、受験手続、合格後に関する質問にまで対応していただきました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信。教材を受け取ってからは18か月ですが、実質的に学習を始めてからは7か月。平日は、昼休み1時間、帰宅後2時間、通勤中100分。休日は6-10時間。この中で可能な限り勉強にあてました。

Q6 合格までの学習法 (全般的なこと/科目別)

FAR、BEC：これまで学習した知識がありましたので、公会計だけ聴講しました。日商簿記2級の実力があれば十分に、Beckerをひたすら解きました。記述問題は一文を短く、シンプルにして、つなげば何とかできました。

REG：BLは、講義を聴きながら自分なりのサマリーノートを作成 (私の場合25ページ) しました。記憶が定着する上、試験前はそのノートだけみればOKです。TAXは2回講義を聴きました。両科目とも、インプットが不十分と思える段階でも、意外に解答できるのでBLはBecker、TAXはTAC問題集をひたすら解きました。

AUD：テキスト学習だけでは解けない問題が散見される印象があります。よって、Beckerを解き、必要に応じ解説をコピー&ペーストして、又は直対テキストに書き込んで、自分だけの豆知識集を作成しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験申込後に受験日等の確認メールがこないこと、受験後にScore Noticeのメールが届かないことがありました。メールで問い合わせをしたら、24時間以内に対応してもらえたのは驚きでした。このアメリカでですよ！

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

米国子会社で経理業務をしているので、USGAAPやTAXに基づいた判断をできたり、懸念事項に気づくことができるようになりました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

講義は完全に理解できなくても、問題演習は進めるべきです。講義レベルが試験レベルより上なので、意外に解けます。一通り聴講を終えたら、Beckerを解き、その際、間違えた問題、気になる問題は必ずチェックボックスにマークします。そして、後はチェックマークのある問題だけ、又はランダム問題を本試験と同じ問題数で解くことで時間配分を覚えながら全範囲こなせます。講義レベルが遥かに上なので、安心して受験してください！



人生は1回。貴重な体験を。

吉田 正夫 さん

1968年生まれ
日本大学商学部 1991年卒業
勤務先：証券会社
公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員

2017年4月 USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：85点（2015年11月／4回目）、BEC：79点（2016年12月／1回目）
REG：78点（2015年11月／2回目）、AUD：75点（2017年4月／4回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

家庭の事情でオーストラリアに移住する可能性があったため、国際的に通用する資格にチャレンジしたいとずっと考えていました。その後、結果的に日本で働き続けることになりましたが、仕事で英文レポートの執筆が多くなったことや、ハイレベルな英会話能力が必要となったため、U.S.CPAを勉強して自分のビジネス英語の能力を高めたいと考えたことがきっかけとなりました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級（1989年）
英語知識：英検準1級（1998年）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

以前にTACの証券アナリスト講座に通ったことがあり、その時の雰囲気为好印象として残っていたため、まずTACの無料講座説明会に参加しました。そこでもらった「第1回FAR講義」のDVDで草野先生の講義を聞いて、これは単なる資格試験ではないと思いついて受講を決めました。当時は朝5時起き終電帰り（時にはタクシー帰り）の仕事をしていて、「時間」と「金」を要するU.S.CPAの勉強をする決断がなかなかつきませんでした。このDVDが後押ししてくれました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

草野先生による「財務諸表の見方」、内田先生による「税法をとりまく米国社会の事情」、杉浦先生による「Business Lawのとらえ方」などは特に参考になりました。U.S.CPAの勉強だけではなく、実務経験に基づいたいろいろな考え方を教えてもらいました。TACでの講義は私にとって視野が広がる貴重な体験となりました。また、小泉先生、阿辺先生、宮崎先生からは、U.S.CPA試験の「攻略法」を授けられました。中でも小泉先生には数多くの質問をさせていただきました。本当にありがとうございました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

2013年1月からTAC新宿校に通いましたが、土日だけの勉強という考えは甘く、海外出張などで教室講義は半分程度しか参加することが出来ず、途中断念しました。その後、2015年4月に転職して朝6時起き夜8時帰宅の仕事になり、勉強を再開しました。土日だけでなく平日も勉強することが可能になり、TACの再受講制度によるDVD視聴（インプット）を通じて本格的に取り組むことが出来ました（勉強再開から合格までの学習期間は約2年）。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

2015年7月に宮崎先生のFARゼミに参加し、グループ内で発言（アウトプット）することで知識を定着させました。ここで知り合った勉強仲間とのグループディスカッションは、自分の理解の確認に大いに役立ちました。また、グループディスカッションは、事前に準備しておかなければならないため、「励み」と同時に「プレッ

シャー」にもなりました。自習に関しては、平日は朝、昼、夜の空いた時間にタブレットでBeckerの問題を解くように心掛けました。土日でグループディスカッションがない日は、家内の許可を得るために長男と一緒に図書館、もしくはTACの自習室（もちろん一人）でBeckerの問題を朝から晩までやり、間違えたところをノートに書き写しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

特に大きなトラブルはありませんでした。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

私の仕事は、担当企業が属する業界の分析、各企業の分析、業績予想と企業価値の算出、投資判断の決定（アイデアの提供）、企業レポートの作成、投資家へのプレゼンテーション、を主たる業務としております。U.S.CPA試験で学習したことは、英文レポートの作成のみならず、各勘定科目が持つ特性といった細かい分野からコーポレートガバナンス、IFRSなど幅広い分野を網羅しているため、いろいろと役立っています。

また、U.S.CPAで知り合った勉強仲間との「世代と業界を超えたネットワーク」は、私にとって非常に貴重な財産になっております。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

- 1) U.S.CPA試験の勉強は、スケジュール管理が非常に重要です。最初に試験の全体像をとらえ、ざっくりとした年間のプランを組み立てるべきでしょう。私の場合、最初の科目を土日に集中して勉強し、自信がついてから次の科目のスケジュールを決めるという悠長なやり方でした。深く反省しています。
- 2) (私のように小さい子供のいるサラリーマンにはなかなか難しいですが、) TACの講義を受けたらその日のうちに問題集をやることを強くお勧めします。振り返ってみれば、講義で内田先生、小泉先生がいつも言っていたと思います。
- 3) できれば常に2科目同時に学習の方が効果的だと思います。私の知っている非常に優秀な勉強仲間はこれを確実にこなして1年で全科目合格していました。
- 4) 宮崎先生のFARゼミを受講することをお勧めします。私は宮崎先生のFARゼミでグループディスカッションのやり方を学んだ気がします。緊張感があり、ある意味「励み」になります。
- 5) 最後に、次はいつになるかは分かりませんが新試験制度への移行前に全科目合格することをお勧めします。私の場合は最後のAUD（17年4月受験）が今回の新試験制度移行後の最初の試験だったため、AICPA側での採点期間が4カ月と長くなりました。結果がわかるまで動きをとりにくいので、何をやっていいか戸惑うと思います。

それでは皆さん、頑張ってください。



FARの合格が鍵

樋口 昌秀 さん

1986年2月生まれ
上智大学 2008年度卒業
勤務先：化学メーカー

2017年5月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：75点（2016年5月／2回目）、BEC：80点（2017年3月／1回目）
REG：78点（2016年11月／2回目）、AUD：79点（2017年5月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

社内で活躍する上司・先輩社員を見ていて、グローバルに活躍するためには、少なくとも何か一つ強みを身につけ、それを育てていく必要があると感じたためです。またなんとなく、財務会計に興味があったのも理由の1つです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：特になし
英語知識：TOEIC®L&R TEST 800点程度

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

説明会後の個別相談でお話を伺った際に、スタッフの方（後に小泉先生と判明）が丁寧かつ誠実に対応して下さい、TACで頑張ろうと即決しました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

- ・小泉先生、宮崎先生、阿辺先生、内田先生、杉浦先生等々の授業がわかりやすく、重要論点とそうでない論点と、強弱をつけて教えて下さいました。また、先生方の熱意には引き込まれました。FARⅢの政府会計とREGのBLの授業が個人的には興味深く楽しかったです。後、通信で受けていた頃は、宮崎先生が授業の冒頭で少しお話しされる「真面目な雑談」が密かな楽しみでした。
- ・テキストが充実しているので、合格後も実務で活用できると思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

結果的に学習開始から4.5年かかりました。通学1年（この間は単に通っているだけでした…）。その後、仕事等で忙しくなると、約2年間一旦勉強を中断（というよりは、正直言いますと、この間は合格を諦めていました）。2016年1月より、再度勉強を本気で再開し、通信で再受講しながら、約1.5年間で合格しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

（全般）

- ・仮に授業で習ったことを整理しきれない/理解していない部分がある状態だとしても、恐れずに、躊躇せずに、とにかく早い段階で問題演習に取り掛かり、多くの問題を網羅的に繰り返し解くことが大事だと思います。私の場合は、TACの問題集及びAICPAリリース問題(5年分)を2~3回転、時間の許す限り、Beckerをとばしながら解いていました。解説を読んでも理解できない問題は一旦スキップして、次の問題を解くことにしていました。問題を解いていく中で理解が深まり、1回転目で飛ばした問題も、2回転目ですんなり理解できるようになることもありました。
- ・Becker(Online)は、本番に近い形で演習ができますので、特にSIM対策として非常に有効だと思います。
- ・会社帰りにTAC八重洲校に立ち寄って2時間、土日は6時間程度学習していました。仕事が忙しくて、平日に勉強時間が確保できないときは、金曜日の夜は早めに休んで、その分土日で埋め合わせ

をするように努めました。

（科目別）

- ・FARⅢとREGに関しては、内田先生の「直前対策まとめ」に自分なりにメモを書きこんで、後はそれを肌身離さず持って、隙間時間を見つけて読み込んでいました。
- ・BECのライティング対策ですが、時間の許す限り、Beckerの回答をノートに書き写し、key wordを暗記するという学習を行いました。時間のない方は、Beckerの問題文を読んでから文案を推敲、作成するという行程を省くのも一案かと思います。当日の試験では、Beckerの問題がそのまま2題出題されて、得点を稼ぐことができました。
- ・AUDは新試験制度での受験となりましたが、シミュレーションでFARの仕訳を理解しているかを問う問題が出題されました。試験直前に、FAR宮崎先生の講義メモを読み返して、主要な仕訳を一通りレビューしおけば万全だったと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

REGの2回目の受験の前日に、TACの自習室から19時位に家に帰ってきて、念の為もう一度最後に直対を見ておこうと思いレビューしていたら、寝付けなくなってしまい、夜が明けました。合格していたので結果オーライでしたが、これから受験される皆様におかれましては、試験前日の夜は潔く休むことをおすすめします。

万が一、不眠や風邪等で体調が万全ではない時には、合格する時はするものだと開き直って試験に臨んで下さい！

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

海外の関係子会社の運営サポートを行っておりますが、経理面で今までよりもスムーズに業務を遂行できるようになったと感じています。例えば、決算時に現地の経理担当者に対して修正仕訳を指摘できるようになり、現地の会計監査時にはAuditorからの質問の意味や、意図もある程度わかるようになり、対応方法について先導することができています。

現在は企画の要素が強い部署に所属しておりますが、将来的には経理部門への異動を希望して、今回の勉強をもっと有効活用できるようしていきたいと考えております。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

科目毎に向き不向き、好き嫌いはあるかと思いますが、個人的にはやはりFARを突破できるか、が一番の鍵だと考えています。FARは学習範囲・分量が4科目中で一番多いと思われ、初学者にとっては難度も高く感じられるのではないのでしょうか(講師の先生方がわかりやすく教えて下さいます!)。これを突破できれば、勉強のコツも掴めると思いますし、自信もつくと思います。私の場合はFARに合格したことで、有効期限内に残り3科目受からなければ、というプレッシャーがプラスに働きました。その後の学習スピード、集中力が格段に向上したと思います。FARに合格したのだから、残り3科目も大丈夫だと踏ん張れました。

学習を続けていけば、必ずモチベーションが下がる時期や嫌気がさす時期が来るかと思いますが。そのような時は、通学の方でしたら同志に愚痴をこぼすか、それでもダメな時は潔く2~3日リフレッシュするのも一考です。月並みな言い方で恐縮ですが、最後まで自分を信じて頑張ってください！



万全な準備で一発合格

永井 公隆 さん

1971年6月生まれ
一橋大学法学部 卒業
勤務先：生命保険会社

2017年9月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：89点（2016年12月／1回目）、BEC：90点（2017年3月／1回目）
REG：87点（2017年9月／1回目）、AUD：80点（2017年9月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

U.S.CPAには、以前から何となく関心があったのですが、ここ数年会社で業務に関係する資格に挑戦するチャレンジ目標を設定することになったのがきっかけです。私は海外ファンドの会計税務処理を担当していましたので、最初はBATICのコントローラーレベルを目指して学習しましたが、残念ながら9点だけ足りませんでした。再度BATICに挑戦しても良かったのですが、ちょうどその時TACからU.S.CPA講座のキャンペーンの案内が届きまして、どうせならBATICよりもメジャーな資格であるU.S.CPAにチャレンジしようと思い学習を始めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：BATIC 871点（アカウンティングマネージャーレベル）
英語知識：TOEIC®L&R TEST 975点、英検準1級

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

昔からTACにはお世話になっていたからです。TACで証券アナリスト、宅建、初級シニアド、BATICを取得し、TACの講義や教材の質の高さを知っていましたので、他校とは比較しませんでした。

U.S.CPAは出願するために一定の会計単位を持っている必要があるなど、受験手続が大変だと聞いていましたが、説明会に参加して手続に関してサポートがあることを知り、そうした心配がなくなりました。説明会の内容が受講開始の最後の決め手になりました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

（講師）

FARの宮崎先生からスタートし4科目を7人の先生から教わりました。また、1年間すべての講義に無遅刻、無欠席で通すことができました。各科目の学習内容だけでなく実務や試験に関する雑談も交えて講義をしていただいたので、1年間毎週日曜日TACの講義に出席するのを楽しみにしておりました。

（テキスト）

TACテキスト⇒TAC問題集⇒Becker教材、直前対策という順に学習していくことで万全な体制で試験に臨むことができました。

いただいた教材ではBeckerのテキスト以外すべての教材をフル活用しました。英語力には自信がありますが、会計や監査のような抽象的な内容を英語だけで学習するのは難しいと思います。TACの教材は日本語と英語が併記されており、講義では日本語で噛み砕いて分かりやすい説明をいただいたため、学習内容が腹落ちしました。

（BECのWC通信講座）

同通信講座をオプションで受講しました。BeckerのWC問題の模範解答はネイティブが書いた完璧な内容であるため、自分にはこんな文章は書けないと愕然としました。しかし、通信講義で有効なパラグラフ・ライティングを教わったうえで、6問の文章の添削で高評価とアドバイスをいただいたため、自信を持って本試験に臨み、BECでは4科目の中で最高点（90点）を取ることができました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

FAR3のように一部DVD通信の科目もありますが、前述したとおり、すべて教室講座を選びました。

個人的な見解ですが、教室講義の方が先生のお話を生で目の前で聞けることからライブ感があり、DVD講義と比べて記憶に定着しやすいと思います。（一方、DVD講義の方が試験日程に合わせて学習計画を組み立てやすいというメリットがあると思います。）

学習は平日2時間、講義のない土日祝日に6、7時間学習し、合計1年9か月で合格できました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全科目を通じて同じ学習法を取りました。

＜インプット期・講義を受けている期間の学習法＞

講義を受ける（予習なし）⇒講義を受けた範囲について2～3日中

にテキストの読み返し⇒TAC問題集で講義の範囲を演習（1回転目）のサイクルで学習していきました。

＜アウトプット期・各科目の受験対策期の学習法＞

各科目とも試験対策として、まずTACテキストの読み返し+TAC問題集（2回転目）で演習を行いました。これは講義を受けていた期間と同じ学習法です。ここで間違った問題については正解になるまで繰り返し解きました。

U.S.CPA試験は、日本の試験のように細かな知識は問われず、各論点について全体を横断的に理解する必要がありますが、暗記カードを作成（用語の解説だけでなく各論についてのまとめも作成）して通勤電車等で繰り返し確認することで受験に必要な知識を定着させました。

続いてBeckerオンライン演習ソフトで演習+直前対策講義の受講を行いました。Beckerオンライン演習ソフトはすべての問題に正解した後は、毎日ランダム演習をしました。平日は朝と昼休みに20問解き、休日は100問解きました。並行してAICPAのリリース問題（過去問）を全部解きましたが、Beckerオンライン演習ソフトに含まれている問題が多いため、その段階では9割程度正解できるようになっていました。最後にBeckerのMock Exam（各科目2回分）を解き、本番の時間配分の最終確認をしました。

合格することを目標にするという観点からはもう少し手を抜いても良かったかと思いますが、勉強自体楽しかったため、特に苦にはなりませんでした。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続については不明点をサポートいただいていたのでスムーズに行うことができ、特にトラブルもありませんでした。

試験の直前には講義終了後に直前相談会というセミナーがあり、そこで試験当日のこともアドバイスいただきました。パスポート等の当日の持ち物や入退室の際の指紋認証、トイレ休憩のルールなどをあらかじめ知っていたため試験当日は落ち着いて対応できました。

受験時のトラブルではありませんが、Beckerオンライン演習ソフトのダウンロード版が動かなくなるというトラブルがありました。不親切な予備校であればBeckerにご自身で問い合わせてくださいというような冷たい対応をされてしまうこともあるかと思いますが、TACはきっちりと対応について調べてご連絡いただけました。2、3日Beckerが使えないようなこともありましたが、それぐらいの期間で済んだため学習計画には影響なく、親切な予備校を選んでよかったと思いました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

U.S.CPAは幅広い分野の学習をしますので人によって役立つ部分は異なるものと思います。私は現在会社でファンドの会計・税務処理を行っています。決算書等を見る、税務申告を行うといった業務を行うこと自体は当然ですが今までできていたが、体系的な知識がなかったことで苦勞していた部分もあります。今はこうした知識をつけられたことで仕事がより一層面白くなりました。

また、今後の話になりますが、U.S.CPAの知識が役立つ部署が他にもありますので、こうした部署への異動も考えますと、この資格がキャリア形成に役立っていると思います。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

私は40代半ばでU.S.CPAに合格しました。U.S.CPAはいくつから学習を始めてもいい資格だと思いますが、振り返ってみますと30代で取得すると一番キャリアアップが行いやすいと思います。

講座の受講料、受験手続、受験料などといったコスト面を考えると学習を始めようかどうかわかってくる方も多いかと思いますが、30代で取ることができればお金もすぐに回収でき仕事にも役立つので、私自身30代で挑戦しておけばよかったかと思っています。

U.S.CPA試験は、1科目ずつ受験できますし、また、各科目とも年4回受験でき、受験日も自由に選べます。そのため、他の日本の試験のように不合格だった場合、1年後再受験ということはありません。お金さえ払えばすぐに受験できるという点は大きなメリットだと思いますので、仕事で忙しい社会人の方が取り組みやすいお勧めの資格だと思います。

転職に有利と考え、短期集中合格でのUSCPA取得を決意。



S.N さん

勤務先：日系大手メーカー

2017年9月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：84点（2017年1月／1回目）、BEC：75点（2017年2月／1回目）

REG：78点（2017年5月／1回目）、AUD：79点（2017年8月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

- 資格取得により転職活動に有利に働くと感じたため。
個人的に監査法人やファイナンシャルアドバイザー会社（FAS）をキャリアの選択肢として検討していたが、その際に必須または有利になると考えた（転職エージェントに登録して求人を見つけた際に、そのような記載の求人票が多くあった）。
- 仕事を通じて培ってきた自身の会計の専門性を客観的に分かる形で残したかったため。
日本の公認会計士の資格と異なり、働きながら取得する事が出来る点、会計分野の専門的な英語がある程度分かる事の証明となる点に魅力を感じた。
- 業務上必要と感じたため。
仕事で海外ローカルスタッフと英語で会計に関する議論をし、英文の財務諸表を見る機会も増える等、業務上の必要に迫られたため。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級

英語知識：TOEIC®L&R TEST いわゆるAクラスの点数

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

過去に関連資格の受験の際に利用した事があり、試験範囲に関する適切な情報と各論点のポイントを抑えた講義に期待出来ると思ったため。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

- 内田先生のFAR（NPA）、REG（TAX）の講義は本当に洗練された内容であり、教材と併せてとても効率よく学習することが出来たのが良かった。
- 総じてテキスト・問題集の質、量ともに優れていたと思う（教材に誤字・脱字がたまに見受けられたが）。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学コースだったが、教室に通う時間がないため、Web音声の講義を自宅で聴講して学習した。勉強開始から合格までの学習時間は、約1年半だった。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

- 全般的なこと
まず講義をWeb音声の1.5倍速（分からないところは通常速度）で聴講し、内容の理解に努めた。講義よりその後の問題演習が重要と考えていたため、2回以上講義を聞くことはなかった。毎回の講義を聞いた後は、該当するTAC問題集を必ず1回解き、講義が終わった後、その後自分が必要と考えるサイクル数、TAC問題集（科目によっては+Becker問題集）を回した。問題を解く際は、分からなければ解答を見る、何故その解答になるのか、出来れば他の選択肢も含めて考える、基本的な内容で間違った問題は重点的にテキストを何度も読み込み腹落ちするまで論点を整理し理解に努める、難しすぎる問題・重要でない講義で言われた問題は思い切って飛ばす、等の点に気を付けていた。Beckerオンライン問題は特に利用しなかった。アラスカ州受験に必要な会計単位については、FAR（NPA部分除く）とBECを一通り学習した段階で不足分をブラッドリー大学で取得した。特に単位取得のためだけの勉強はしなかった。
- 科目別
 - FAR
TAC問題集を3回転し、シミュレーション演習も解いた上で本試験に臨んだ。FARのTAC問題集はBecker問題集の内容から厳選して作成されたと感じていたため、効率性の観点からBecker問題集には手をつけなかった。Beckerオンライン問題にも手をつけなかったが、初回受験では電卓やシミュレーション問題の操作方法に慣れておらず焦った事もあり、可能であれば事前に利用した方が良かったと感じた。AICPAリリース問題にも手をつけていなかったのだが、時間が許す限り取り組むべきと思う。
FARは範囲が広いが、各論点につき、テキストの読み込みと問題演習を通じて内容を理解することに時間を割くのが重要と考える。尚、NPAは、最初はとっつきにくいと感じると思うが、本当に得点源となるので頑張っておきたい。内田先生の直対まとめを使えば効率的かつ効果的に学習が出来ると思う。
 - BEC
TAC問題集を2回転、Becker問題集を1回転し、WC対策にも取り組んだ。WC対策としては論理構成や締めめ文章の基本を確認し、後は

各論点の回答例を簡単に書きまねてみるくらいの対策しかしていなかったが、おそらく部分点にはなったと思う。結果はギリギリの合格であり、WCへ少しでも取り組んだかどうかは合否を分けたと言っても過言ではないと感じている。正直BECに関してはどこまでやれば十分な勉強量なのか最後まで分からなかったが、シミュレーションやWC対策はやはり時間をかけて取り組んだ方が良かったと思う。

③ REG

FARとBECの合格後、約2か月半の間に集中して講義から受験まで臨んだ。まずTAXの講義を聞き問題集に取り組み、その後BLに同様に取り組んだ。TAXは内田先生のアドバイスを参考とし、TAC問題集はAICPAリリース問題部分合せて合計2回転サイクルを回すに留め、Beckerは使用せず、後はテキストの内容を書き込んでいた直前対策まとめを何度も読み込んだ。但し、問題集を解く際は、テキストや直対、申告書サンプルを何度も開きながら、内容の理解、全体像の把握にじっくり時間をかけて丁寧に取り組んだ。BLは、出題されない範囲もあるため、どの部分が出題されどの部分が範囲外か、講義で聞き逃さないようにし、後はTAC問題集とBecker問題集につき、合計2回転した。REGについてはシミュレーション講義、演習は時間の都合でスルーしてしまったが、時間がある限り併せて取り組むべきと考える。

④ AUD

REG合格後、約2か月半の間に集中して講義から受験まで臨んだ。講義の聴講はAUDに関しては自分にとって必須ではないと考え、テキストの読み込みから始めた。その後、TAC問題集、Becker問題集、直近のAICPAリリース問題、シミュレーション演習をそれぞれ1回転しつつ、合間にテキストを繰り返し読み込み、内容の理解に注力した。監査論初修者だったので、テキストを1回転しても正確に理解出来ない部分が多数あったので、監査の流れ、各プロセスで実施する内容、TOCや各実証手続きの特徴、各レポートの文言・他との相違箇所、監査人のコミュニケーションの内容（内部統制の不備の種類、種類毎の報告対象、報告期日等）、Attestationごとの特徴・他サービスの相違等につき必要に応じてノートに自分でまとめる等して、各項目間の関係性・相違点をとにかく1つ1つ整理して理解することに注力した。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

TACの案内に従い受験手続を進めたおかげで、特に問題は起きなかった。ただ、最初に受験に必要な追加単位取得のスケジュール確認を行っておらず、後々苦労した。面倒でも英語を見たくなくても最初に全体のスケジュールを確認し、ポトルネックになりうる申請処理等ですぐにやれるところには早めに手をつける事が重要と考える。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

現在携わっている業務では、英文財務諸表で利用されている単語の理解がスムーズになった点、監査論で学習した内容が監査対応の理解にプラスに働いている点はあると思う。但し、USCPAでは各論点の深いところまで学習するわけではなく、広く浅い知識を身に付けるものであり、直接100%活かしているわけではない（例えばFARでは、外貨建取引やデリバティブ、連結会計等の論点には全く深入りしていないと感じるし、BECのITやECOも本当に触りた部分だけの内容と感じた。REGやAUDは、税理士法人や監査法人ではほぼそのまま知識が活かせるかもしれないが）。当たり前の話だが資格はあくまで関連する実務経験があって初めて+αとなり経歴に彩りを添えるものであり、資格保持により独占業務が可能となるケースは勿論あるが、実務およびその中で勉強した知識・経験が何よりも重要で、評価される事は認識すべきと感じている。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

受験開始前の事前知識は人それぞれと思うが、少なくとも一般的には約1～2年は開始から合格まで時間がかかる試験であり、その間は試験勉強に時間を拘束される事となる。科目合格制度はあるが、期限もあるため、効率を考えれば間違いなく短期的に集中して1科目ずつ確実に合格を目指すのが良いと考える。自分の場合も、受験開始前に関連する資格の受験経験があり、TOEIC®L&R TESTの点数もある程度あったものの、合格まで、平日および土日のどちらかは勉強、夏季休業や年末年始もそれなりの時間を勉強に充てていた（途中で若干怠ってしまった期間はあるが）。自身のキャリアのため、自己満足のため、動機は何でも良いと思うが、それなりのお金と時間（後者がより大事）を投じてまで、この資格を取得する事が自身にとって本当に必要か、必要としてどのくらいの期間で合格出来るのか、自身のモチベーションや合格までにかかる時間の見直し、期待する見返りについては、開始前に本当によく考えるべきと思う。尚、転職を見据えての取得であれば、この資格が有利に働くケースがあるのは個人的に実感しているが、一般的には年齢を重ねるほど評価の効果も薄まるため、取得は早い方が良く、なおさら短期集中合格を目指すべきと考える。



人生で一番勉強をした1年間でした。

高橋 宏希 さん

明治大学（2013年度卒業）
勤務先：日系メーカー ファイナンス部門

2017年9月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：84点（2016年8月／1回目）、BEC：80点（2017年2月／2回目）
REG：76点（2017年5月／2回目）、AUD：79点（2017年8月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

国際的に通用する専門性を身につけたかったこと、キャリアアップのため、また働きながらでも目指せる資格だったためです。これまでの人生を振り返ると勉強に真摯に向き合ったことがなく、いつも手の届く範囲で要領だけ良くなっていった気がしたので、そんな自分を変えたい気持ちもあったと思います。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級
英語知識：TOEIC®L&R TEST 800点
※ただし、いずれも学生時代に取得したものです。
仕事柄、会計や英語に触れているため、その点では多少アドバンテージがあったかと思えます。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

資格を取ろうと決めたタイミングでちょうど開講されることを知ったため。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

教材のボリュームは多いですが、TACのテキストとBeckerで十分合格できることから、勉強法に悩むことがなかったことが良かったです。
また、講師陣に様々なバックグラウンドを持つ方が多く、講義中のスモールトークが面白く、飽きずに通学することができました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学。約1年半

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

各科目の勉強法は他の方の合格体験談に詳しく載っていますので、私からは全科目に共通する勉強法を共有させていただきます。※勉強法は各人各様だと思いますので、皆様もご自身に合った勉強法を確立されることをお勧めします。

私は初めにFARを受験しました。その時は勉強法が確立できておらず、手応えもなかったのですが、高得点で合格していました。恐らくできなかった問題がサンプル問題で運よく採点されなかったためだと思います。勉強法を確立できたのは、手応えはあったのにBECで1点足りずに落ちた後、真剣に勉強法を見直してからです。

以下、私の勉強法です。

- ① テキストを読み込み、TACの問題集を解く。
- ② 間違えが多い章、なんとなく苦手意識がある章を暗記ではなく理解するように再度テキストを読み込む。
- ③ Beckerの問題を解く。各科目かなりボリュームが多いですが途中でやめるとサボり癖がついてしまうので、まずは1周回してみました。
- ④ 本番を想定して、30問（AUDは36問）MCをランダムに解く。本番と同じ問題数にすることで、集中力を持続的に継続することができたと思います。間違えた問題の解説をノートに書き、合っていた問題でも自信がない箇所はノートに書き起こしていました。（各科目ノート1冊はこのランダムMCで使ったと思います）また、正答率80%程度になるまで解いていました。
- ⑤ AICPAリリース問題を公開されているだけ解く。各科目10年分くらいあると思いますが、全て解きました。

- ⑥ BeckerのFinal Examを解く。※他の方が仰っているように本試験より難しいので、スコアが悪くても気落ちする必要はありません。私も1回目で75%を超えることはありませんでした。
- ⑦ 試験直前はノートの見直し、テキストの通読。章順に読み返すのではなく、試験を想定して、ランダム順に読み返していました。（試験では章順に出題されるわけではないため）

SIMは対策することが難しく、かといって捨てることもできないので、私はAICPAリリース問題のSIMだけ解いてどんな形式の問題が出るか確認していました。

WCはフォーマットだけ覚えましたが。（コンピューター試験である以上、フォーマットが整っていれば、最低限形式点はもらえると思ったため）

USCPAは日本での受験者数が少なく、情報も限られているので色々なテキストや問題集に手を出したくなりますが、TACの教材とBeckerで十分合格できますので、あれこれ手を出さずにやりきることに大切だと感じました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

学歴審査や試験申込の手続きが想像以上に時間がかかりますので、早めに取り組むことをお勧めします。

また、試験会場には余裕をもって到着することをお勧めします。私は御茶ノ水で受験していましたが、必ず少し早めに到着するようにして試験会場の1Fのプロントでコーヒーを飲み、復習をしてから試験に臨んでいました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

USCPAは非常に広範囲な試験のため、会計財務、ITや監査に関する知識が飛躍的に向上し、業務においても役立つことは多いのですが、何よりも、努力したことが目に見える成果として表れたこと、一つの事をやり切ったことが大きな自信になりました。

恐らくこれまでの人生で一番勉強をした1年間だったと思います。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAは巷で言われているほど簡単な試験ではないと感じています。合格率こそ各科目50%前後ですが、candidateの多くはアメリカの会計専攻の学生や社会人で、彼らは英語が理由でつまづくことがない人たちです。私のように純ドメの日本人は英語のハードルがありますので、受験まで辿り着くことができずに終わるか（私の出席していたクラスも最後には数えるほどしかいませんでした）、科目合格をするもタイムアップで失効してしまう人が相当数いると思います。日本人にとって、アメリカの国家資格を目指すということはものすごく難しいことだと思いますし、また、どんな資格であれ、働きながら勉強を続けるということはとても大変なことだと思います。少なくとも私は、1年間勉強に打ち込み、夏休みもGWも勉強に費やしてやっと合格できるレベルでした。

周りにUSCPAの受験生がいなかったため、孤独に勉強をしていましたが、TACの自習室に来ると私より早く来て勉強をしている方がたくさんいて刺激になりました。

USCPAは75点で合格となりますが、奇問難問はあまり出ません。（出たとしてもサンプル問題である可能性が高いです）そのため、基礎問題を絶対に落とさないことが大切になります。

USCPAに合格して、大きな自信になりましたし、これまでの自分を変えるきっかけになったと思います。

私のように留学経験がなく、帰国子女でもない純ドメの人間でも合格することができますので、もし同じような方でUSCPAに興味のある方がいましたら思い切ってトライしてみることをお勧めします。

最後に、この合格体験談を読んでくださった皆様が合格できることを心より祈っています。

「着実な理解」が合格への近道！



E.O さん

勤務先：情報・通信サービス

2017年8月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：88点（2016年12月／1回目）、BEC：77点（2016年11月／1回目）

REG：77点（2017年5月／1回目）、AUD：78点（2017年3月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

新卒で就職以来、システムエンジニアとして会計システム構築に携わっており、海外と関わるプロジェクトも経験しました。その中で、より会計業務に精通しグローバルな仕事ができるようになりたい、と思うようになり、会計+英語の総合力を鍛えていくきっかけとして、まずはU.S.CPA取得に挑戦しよう、と思い立ちました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級、BATIC® Accounting Manager レベル
英語知識：TOEIC®L&R TEST 900点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

以前、別の資格取得の際にTACの教材を利用しており、教材の充実ぶりについては「TACの教材だけしっかりやれば大丈夫！」という安心感がありました。今回も、自分は日々の業務において、監査や税務、管理会計など直接接しているわけではなかったため、基礎から着実に理解できる構成になっているか、十分なアウトプット量を講座内で確保できるか、を軸に検討した結果、やはりTACだと判断しました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

教材・カリキュラム

米国でも定評があるというBeckerの教材とリンクしつつ、日本人の初学者でもわかりやすいように独自の体系にアレンジされており、勉強を進めやすかったです。新しいテーマごとにしっかりと概論の説明があったことで、なじみのない論点でもスムーズに進めることができました。

問題集も、一題一題日本語の解説がしっかりついていたので、問題をときながら効率的に理解を深めることができました。

講師

どの先生も、要点をおさえたメリハリある講義で、最後まで諦めずに聴講できました。細かい点ですが、テキストにマークすべき箇所や関連論点のページ数など都度示していただいたことで、後から復習し易い、オリジナル・テキストを作り込むことができました。

その他

最初のDVD学習から受験まで時間のあてしまった科目もありましたが、5年間再受講制度や制度改定/試験範囲変更に対応した改定レジュメを活用し、最新情報をキャッチアップすることができました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で学習しました。

学習開始から4科目分DVD視聴～問題集一巡、単位取得で1年；Beckerオンライン演習ソフト中心の演習～本番受験で1年、計2年かかりました。

途中、業務多忙によりまったく勉強できない期間も半年ほどありましたので、実質1年半ほどかかっています。また、前半の1年間は、一週間あたりの勉強時間は平均週6～10時間（DVD視聴時間含む）と、後半の半分以下だったため、今振り返れば、もう少し短期集中にできたかな、と思います。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと/科目別）

自分の場合、会計単位がゼロだったため、単位取得を終えるまで出願ができなかったこと、また、各科目合格から18ヶ月でexpireというタイムリミットがあり、受験開始後に一から学ぶ科目を作らなくなったことから、講義受講期と受験準備期に大きく分けて学習を進めました。

【講義受講・単位取得期】

DVD受講順：FAR>BEC>REG>AUD

どの科目も、DVDで講義を視聴→各回の講義視聴後、対応する

TAC問題集を解く というサイクルで学習を進めました。

あまり器用な方ではない自覚があるので（笑）、教科によってやり方を変えたりショートカットしたりせずに、TACのカリキュラムにそって一つ一つ進めていきました。

自分なりに気をつけたのは、各科目初回の講義DVDを見始める前に、テキストを流し読み（1冊1時間かからないレベル）すること、毎回目次を確認すること、です。学習範囲の全体像や、自分がどこにいるのか、を「なんとなく」つかんでおくだけでも、頭への入り方が違うと思います。

アラスカの場合、FARとBECの学習範囲だけでも単位数が足りるので、REGとAUDの講義受講をすすめながら単位取得の準備・受験を行い、AUDの学習が終わるころ、単位をそろえて出願しました。

【受験準備期】

本番受験順：BEC>FAR>AUD>REG

各科目、受験準備期には、直前対策テキストで要点の総ざらいを実施したあと、Beckerオンライン演習ソフトで問題演習。正答率の低い部分はテキストに戻って復習、を繰り返しました。

問題演習で心がけたのは、解説をきちんと読み込む、ということです。正答している問題でも、なぜ他の選択肢が誤りなのか解説を読んで理解するようにしていました。問題数が多く、つい数をこなすことに執着しがちになるのですが、多少時間がかかっても、理解重視、を心がけ、その分、似た問題は印をつけて2回転目以降は飛ばすようにするなど、少しでも効率的に進められるよう工夫しました。

新試験への移行タイミングに受験期間が重なり、新旧で問題形式等に差異が生じやすいものや苦手分野を先に受験するため、学習順との入替を行いました。結果的にREGのみ新試験での受験となりましたが、REG問題集のTBSパートの解説が大変充実しており、暗記事項についても直前対策まとめが非常に秀逸でしたので、難易度の高いTBSが出た際にも、落ち着いて対応できました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続はTACの受講生サイトに記載の要領で進め、特に変わったこともなく、スムーズに完了することができました。

実際の受験では、受験日を間違えて1回分受験料を無駄にしたり、TBSの時間配分を間違えて4問を20分で解くはめになったり、解答時のマイナス金額の入力の仕方を間違えていたり、と散々やらかしました（苦笑）。かけている労力も、金額も、これまで受けてきた資格試験とは桁が違い、直前期～本番は相当あがっていたのだと思います。試験日や持ち物は1週間前から確認しておく、当日の時間配分や、TBS解答時の確認ポイント（添付資料の確認漏れがないか、解答方法は指示通りか、など）を確認する、といった基本動作の重要性を痛感しました。

毎回、MCのTestlet2,3での難化が感じられず、TBSでも凡ミスをし、受験後はどんだ底の気分を味わいました。結果としてはどれもギリギリで合格していたので、本当に「ふたを開けてみないとわからない」試験だな、とつくづく思います。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは？

会計業務に関して、日英間の翻訳や、海外の方との質疑応答などがより正確に、自信を持ってできるようになったと感じています。またREGやAUDの領域はこれまで学習したことのない内容でしたが、日本での考え方に相通する部分も多く、クライアントや上司・同僚の会話において、自分の話の引き出しが確実に増えていると実感しています。波及効果として、日本の税制にも興味がわき、USCPA勉強期間中にちょっと詳しくなりました（笑）。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

自分のように、学生時代に会計・ビジネス系の単位をとっておらず、これまで触れたことのない知識領域があると、それなりに学習時間もお金もかかる試験であることは事実だと思います。何のために合格を目指しているのか、合格してどうなりたいか、を見失わないことが、最後まで走り続けるために重要だと思います。

範囲が広く、受験準備期間は精神的に追い詰められる時期もあるかと思いますが、「自分が理解・記憶できていること/できていないこと」を冷静に見極め、一つ一つつぶしていけば、きちんと結果がついてくるはずですので、自分を信じて頑張ってください！！



遥かインドの地でUSCPA合格

三宅 志英 さん

早稲田大学 国際教養学部

2017年8月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：77点（2016年2月／1回目）、BEC：80点（2017年3月／1回目）

REG：91点（2017年 8月／1回目）、AUD：81点（2017年10月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

昔から発展途上国で働きたかったのですが、特に自分を売り込める能力や技術がなく悩んでいました。前職は国内機械メーカーの営業だったのですが、USCPAを取得して海外で活躍している友人の話を聞き自分も20代のうちに挑戦したいと考え、思い切って退職、インドの会計事務所で働きながらUSCPAの勉強をすることにしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記3級

英語知識：TOEIC®L&R TEST 975点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

他社と教材サンプルを比べた時、教科書内の英語と日本語の比率が私にとって一番良かったからです。重要な点は英語と日本語の併記になっています。また、Beckerの問題集の評判が良かったことも決め手の一つになりました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

教科書の英語と日本語のバランスが絶妙でした。会計初心者である私はまず日本語の説明を読み、2回目以降教科書を読み直す時に英語パートを読んで実際の試験に対応するようにしていました。また、授業内でも先生方が抑えるべきポイント、後回しにすべきポイントを明確にしてくれたので効率的に勉強できたと感じます。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で勉強していました。トータルで2年弱掛かりました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

複数科目を同時に勉強することが不安で、一科目ずつ合格する戦略を立てました。勉強時間を計算するスキルが重要で、一日何時間勉強したら試験日まで問題集を何回解けるかということ各試験日の3カ月前から逆算していました。

<FAR>

勉強時間は700時間程です。FARは単元が多いので、ある程度理解したら完璧でなくとも次の単元に進み、とにかく何回転も教科書を回すことを心がけました。

<AUD>

勉強時間は550時間程です。4科目の中で一番体系的に理解することを心掛けました。

<BEC>

勉強時間は450時間程です。英語にはある程度自信があったのでWriting問題の対策はほとんどせず、MC問題対策に集中するようにしました。分野が多く勉強時間配分に苦心しました。

<REG>

勉強時間は480時間程です。TAXを中心に勉強し問題集は4回転しました。一方BLは割り切って重要項目に指定された箇所を読み込むに留めました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

私が働きながら勉強していたインドでは停電や断水が頻繁に起こり、勉強に集中しやすい環境とは言い難いところです。一度サイクロンがやってきて4日間停電が続いた時は懐中電灯の明かりで勉強していました（笑）。それも逆に集中力が上がって良かったかも知れません。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

現在インドの会計事務所で働いています。インドと米国の会計基準が必ずしも同じわけではありませんが、会計基準の設計思想は似ていると感じています。問題に直面した時「ああ、きっとこの基準はこういう考えの下で作られたんだな」と理解しやすくなりました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAの勉強は長い道のりですが、試験自体は決して奇問が多いわけではありません。是非気長に、しかし諦めないでチャレンジして下さい。恐らく受験者全員に共通する悩みは勉強仲間がないということだと思います。出来るだけ伝手をたどって勉強仲間を確保されることをお勧めします。きっと精神的な支えになると思います。



会計力＋英語力で一步先の経理マンに！

加藤 卓 さん

1988年6月生まれ
早稲田大学 2011年卒
勤務先：監査法人

2017年9月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：92点（2017年9月／1回目）、BEC：83点（2017年7月／1回目）
REG：85点（2017年1月／1回目）、AUD：80点（2017年4月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

監査法人に勤務しており、普段の業務で海外子会社とのやりとりを英語ですることもありますが、TOEIC等で英語そのものを勉強するよりも、専門用語を覚え、米国の会計・監査慣習を理解するために、U.S.CPAを学習した方が効率的だと思ったからです。

勤務先から学習のための補助が出たのも理由の一つです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日本の公認会計士
英語知識：TOEIC®L&R TEST 800点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

TACで日本の公認会計士、中小企業診断士、会計士の修了考査の講座を受けていたので、安心感がありました。「会計ならTAC」という思いがありました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

Becker 30コースで受講しましたので、英語のテキストだけしかないという不安もありましたが、講義の中で、本試験上ポイントとなる箇所を指摘してくれたり、思い切って飛ばしてしまってもよいところ等をアドバイスしてくれたので、過不足なく学習することができました。英語だけで理解が怪しいと感じたところは、日本語解説も入っている直前対策の教材を利用して補いました。

Beckerのonline教材もとても良かったです。通勤時間にスマートフォンで問題を解くことができますし、改定論点等もすぐにupdateされます。間違えた問題だけを解く機能やランダムに解答する機能もありますので、それらを利用して、効率よく演習を行うことができました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

Becker30コース（通信DVD）で学習。

2016年6月に講座を申し込み、2017年9月に最終科目に合格しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

FAR、BEC、AUDの3科目は、日本の公認会計士試験の範囲と重複する分野が多いので、まず問題を解答してから、必要だと思われる部分についてDVDを視聴するようにしました。

REG及びFARの公会計については、最初からDVDを視聴して、その後で問題を解答するようにしました。

内田先生の公会計と税法の講義がとてもわかりやすかったです。

Beckerのonlineには2回分のMock Exam（模擬試験）がありますが、それぞれに本試験の「2週間前」、「1週間前」という記載がありましたので、それに合わせてスケジュールを立てるようにしました。2週間前までに、試験範囲の学習をひととおり終わらせるようにして、1回目のMock Examを解答する。間違えたところは、1週間前に2回目のMock Examを受けるまでに修正するといった感じです。Mock Examを受けることによって、時間配分の練習はもちろん、4時間ずっと座っている練習にもなりました（笑）。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

日本にはないタイプの試験だと思います。試験当日にはセキュリティチェックがあり、金属探知機でボディチェックを受けます。また、試験を受けるまでの手続きが多いのも特徴だと思いますので、途中で分からなくなったら、TACの事務局に聞くようにしていただいた方が良いでしょう。

REGは時間に余裕がありましたが、BECは英作文や計算問題が多くギリギリでした。

FARはマルチプルチョイスの問題が途中で明らかに難しくなったので、合格への手応えを感じました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

今の仕事にはすごく役立っています。米国の人と監査の話をする時にも、米国特有の考え方がわかるようになりました。

ですが、何といたっても、英語力の増加が一番の副産物だと思っています。仕事で長い文章を読むことも苦ではなくなり、読むスピードが俄然速くなりました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

日本の会計士の方が受験される場合、基本的な知識は全く問題ないと思いますが、英語でつまづくことがあるかもしれません。でもそこで辞めたりはしないで、「間違えたことにより、単語を覚えていくようにするんだ」といったように、発想をプラスの方向に転換させていただくと、勉強も楽しくなり、会計の専門家という強みを生かしつつ、差別化を図ることができるのではと思います。

また、受験費用が高いので二の足を踏む方が多いかもしれませんが、会計＋英語力のある人材が求められているというのは肌で感じますし、そのような人材になるための近道でもあると思います。英語力の証明になり、英語が必要な仕事を与えられるチャンスも増えてくるかと思うので、是非目指していただきたいと思います。

高い受験料は逆にモチベーションアップにつながるかもしれません（笑）。

会計初学者、子育てしながらなんとか合格



D.K さん

勤務先：医薬品メーカー

2017年8月 USCPA試験合格（ワシントン州）

FAR：89点（2016年2月／1回目）、BEC：79点（2016年5月／1回目）

REG：80点（2017年3月／1回目）、AUD：78点（2017年8月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

現職でのキャリアに会計の知識をプラスα要素として取り入れたかったためです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：なし

英語知識：仕事で日常的に使用、海外駐在経験あり

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

Beckerの教材が使用できる点、また通信講座でも教室フリーパスで講義を聴講できた点がTACを選んだ理由です。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

セクションの学習順序にも独特のアレンジがされており、Beckerのテキストと異なっていたため、両方を同時に読み進めることで日本語で予習と英語で復習、その逆といった形で理解の不十分な点を補完することができた点です。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で申し込み、教室フリーパスを利用して教室に通いながら、参加できなかった講義をDVDで補いました。

合格までの学習期間は2年2か月ほどです。

Q6 合格までの学習法（一般的なこと／科目別）

最初に土・日両方の教室に通い、全科目の講義を9か月ほどで受講、それぞれの科目の全体像を掴んだ上で、FARのみでしたがゼミを受講し、そこで出会った仲間と受験計画に合わせて週1～2回、仕事後に勉強会をしながら科目毎の学習を進めました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

最初の科目の受験手続時、NTSの受領までは1週間ほどと、聞いていたよりも短いぐらいでしたが、日本受験料を支払った後、通常24時間後に試験予約ができるはずが、3日経ってもエラーが出るためNASBAに問い合わせ、2週間経ってやっと解決しましたが、当初狙っていた受験日の予約は既に埋まってしまっていました。

出願から受験まで、トラブルの可能性も想定して、余裕をもった計画づくりの大事さを実感しました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

全般的なことですが、ざっくりとでもいいのでゴールまでの学習計画とステップに応じた目標設定をすることで、非常に長期にわたる難関な課題を克服することができることを実感しました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

多くの方がお仕事や家事、その両方を抱えながら学習をされているかと思います。

情報交換のみならず、モチベーションを保つためにも切磋琢磨できる勉強仲間の存在は非常に重要ですので、億劫がらずにゼミを受講する、講義に足を運ぶなどして繋がりを作られることをお奨めいたします。



会計・語学・ITの3種の神器が学べます

鈴木 聖久 さん

1979年生まれ
横浜国立大学 経済学部 国際経済学科 2002年度卒業
勤務先：東証一部上場 機械メーカー
通関士、簿記1級、税理士4科目合格、米国税理士、
中国語通訳案内士

2017年5月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：86点（2016年2月／1回目）、BEC：94点（2016年4月／1回目）
REG：79点（2017年1月／1回目）、AUD：92点（2017年5月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

- ① パンフレット
TAC税理士講座の受講生です。
TACの受付前の廊下を通る度、USCPAの格好良いパンフレットが目に入り、チャレンジしたくなりました。
- ② TAC NEWS
TAC NEWSで記事を書かれている講師の方の中に、USCPA・税理士ダブルライセンス保持者が複数いらっしゃるだったので、自然と、税理士の次はUSCPAにチャレンジしたいという気持ちが芽生えていました。
- ③ 将来に向けて
私は、現在、機械メーカーで営業の仕事をしている三十代後半のサラリーマンです。将来、税理士資格を取ったとしても、若い内から税理士事務所に勤務して実務を積まれている方に、同じ業務で追い付くのは厳しいと思い、何か付加価値を付けられないかと思っていました。
そこで、海外に目を向けるUSCPAを掛け合わせるのが良いのではと考えました。日本は、今、人口減、超高齢化が進み、徐々に市場規模が縮小しています。企業も、生産・開発の拠点をどんどん海外に移っています。日本国内の従来ベースの仕事だけに安穩としていると、少ないパイの奪い合いになり、苛酷な値下げ競争に陥るということは、現在の仕事を通じて痛感していました。世界の人と同じ土俵で情報を吸収し、物事を考え、良いものを取り入れながら、日本企業の海外展開のお役に立てるようになる。ここに活路を見出すしかないと考えました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記1級（2013年）
税理士 簿記論・財務諸表論・消費税法（2013年）、法人税法（2015年）
米国税理士（2014年）
英語知識：TOEIC®L&R TEST 780点（2015年）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

税理士（現在、4科目合格済）、米国税理士とも、TACを受講し、合格出来ました。教材・講師の質が高いことは十分理解しており、当然のこととして、TACを選択しました。
巷にはいくつもの学校があり、値段だけで言えば、TACより若干安い所も有るようです。しかし、数万円を惜しむ余り、何か月も合格が遅くなってしまったり、又は、途中で挫折するリスクを増やしてしまう訳には行きませんでした。働きながら、貴重な時間を捻出して取り組むには、出来るだけ自分の負担を下げるのが重要ですので、教材・講師の質、電話サポートの充実さで安心出来る学校を選びました。
ちなみに、私は教育訓練給付金制度を利用し、TAC受講後20%の給付も受けました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

- ・受験手続が、WEBで分かりやすく説明されており、助かりました。
- ・疑問があれば、すぐに事務局へ電話して質問が出来ました。
- ・学習方法等については、講師の方に電話して、直接教えて貰うことが出来ました。
- ・どなたが電話に出られても、皆さん優秀で、毎回、的確なアドバイスを頂きました。
- ・改めまして、USCPA講座受講前に、本資格について色々相談に乗って頂いた事務局の笠井様、質問電話で親身にアドバイスを頂きました小泉先生に感謝申し上げます。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

- ① 受講方法
広島校にバスで近い所に住んでいた為、DVD通学にしました。自習室代わりにDVDルームを使える状態にしつつ、ほぼ自宅で、WEBで聞いていました。
- ② 倍速再生
TACのDVDルームでは、1.4倍速しか出来ません。一方、自分のPCなら、WINDOWS POWER DVDなどで、2倍速で再生出来ます。音声をダウンロードして、ソニーのウォークマンで2倍速で再生することも出来ます。2倍速で聞きつつ、自分が面白いと感じたお話をメモする時は一時停止にしたり、意味が分からない難しい箇所については、その部分だけ、2回か3回、繰り返し聞いたりしていました。こうすることで、同じ3時間でも、1倍速で聞くよりずっと中身の濃いものになりました。
- ③ 感動メモ
「ここは日本と全く同じじゃないか」、「この部分は日本とは大部違うな」、「この制度が日本に有れば良いな」、「アメリカ人は日本よりお金持ちが優遇されているな」等、自分が楽しいと感じたこと、発見したことは、メモしていきました。自分が発見したことというのは、何よりも印象深いものです。

その時、感じたことを忘れないようにメモすることで、記憶が鮮明になりました。

- ④ 学習期間
2015/9/1 受講開始
2015/9/2 ブラッドリー大学入学
2015/9/2 NASBAのWEBサイトで学歴審査依頼用ID取得
2015/9/3 NASBAに学歴審査用 英文卒業証明書を送付
2015/9/27 ブラッドリー大学単位受験(ATG157) ※単位の成績は月末締翌月中旬発表。
2015/10/2 ブラッドリー大学単位受験(ATG158)
2015/10/2 NASBAから学歴審査の結果受領(Eメール) [所要期間：約1ヶ月]
2015/10/19 ブラッドリー大学単位受験(ATG301、ATG302)
2015/10/25 ブラッドリー大学単位受験(ATG383)
※TACは5科目目として、取得が容易なATG314を推奨していますが、ATG314は、ATG158の合格発表後しか受験出来ません。それでは、1ヶ月口スしてしまうので、すぐ受けられるATG383を受験しました。
2015/11/13 ブラッドリー大学の10月分の単位試験結果が出た直後に、ブラッドリー大学からCPAアラスカ州事務局に、会計科目15単位の成績書を送って貰うよう依頼(TAC経由)
※尚、ブラッドリー大学の成績書送付業務は、毎月のバッチ処理で、次回発送は12月初旬になるとのことでした。
2015/12/3 NASBAに3科目分の受験料支払
2015/12/3 CPAアラスカ州事務局に英文卒業証明書・成績証明書を送付
2015/12/31 CPAアラスカ州事務局から、「ブラッドリー大学の成績書が未着」と連絡有り。TACに相談し、すぐに再送依頼頂く。
2016/1/14 NTS(受験の為のID番号)受領(Eメール) [所要期間：約1.5ヶ月]
2016/2/14(日) BEC受験(正答率の感触 76%)
⇒2016/2/23 結果発表86点(合格)
2016/4/24(日) FAR受験(正答率の感触 78%)
⇒2016/5/26 結果発表94点(合格)
※税理士試験の為、2016年5月～8月迄はUSCPAの学習中断。
2017/1/10(水) REG受験(正答率の感触 74%)
⇒2017/2/8 結果発表79点(合格)
2017/5/7(日) AUD受験(正答率の感触 76%)
⇒2017/8/17 結果発表92点(合格)
※2017年4月から新試験制度に移行の為、移行後初の試験ターム(2017年2Q)の結果のみ、3ヶ月後となりました。通常は半月程度で結果が出ます。
※合計期間：20ヶ月(学習中断期間を除くと16ヶ月)
※Prometricセンターの試験日程の変更は、31日前迄は無料。5日前迄は35ドル。前日迄は70ドル程度です。直前で都合が悪くても変更が利くので、安心して予約しておくことが出来ました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

- ① 学習法
 - ・講義DVDを2倍速で全部聞く。
 - ・TACの問題集(全問)を1回転。
 - ・Beckerの問題集(全問)を2回転。
※FAR、REGは、TACの問題集だけでもVolumeが有り、手を付けませんでした。その代わり、TACの問題集を2回転。
※AUDは、なかなか正答率が上がらず、4回転しました。
 - ・Beckerオンラインで、Final Exam 2回分を1回転。
 - ・Beckerオンラインで、SIM問題のみ1回転。
 - ・問題集を解く上で、どうしても暗記が必要な内容のみ、暗記帳を作成。(各科目A4 10枚以内) (上記に並行して随時)
 - ・問題集、Final Examで間違えた問題のみもう1回転。
- ② 学習時間
2015年9月～2015年12月 単位取得 50h/月×4ヶ月=200h
2016年1月～2016年2月 BEC 100h/月×2ヶ月=200h
2016年3月～2016年4月 FAR 100h/月×2ヶ月=200h
2016年9月～2017年1月 REG 50h/月×5ヶ月=250h
2017年2月～2017年5月 AUD 80h/月×4ヶ月=320h
合計 1,170h

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

- ① 便利なPrometricセンター
単位試験については、東京、大阪に限らず、全国のPrometricセンターで受験出来ました。私の場合、広島駅前にあるPrometricセンターで受験し、交通費を掛けずに単位を取得出来ました。
一方、本試験は、東京or大阪でしか受験出来ない為、大阪で受験しました。大阪の会場では、今迄の単位試験と違い、両手人差し指の指紋認証、写真撮影、厳重なボディチェックの上、入室が許可されます。ハリウッド映画と言えば大袈裟ですが、セキュリティの厳しいアメリカの試験を受けているのだなと実感が湧き、嬉しくなりました。
- ② グラムへのTransferについての勘違い
グラムは、実務経験無しにCertificateを取得できますので、将来、アラスカ州で合格後、グラムにTransferしようと考え、本試験に並行して、グラムに必要な単位(18単位)を追加で取得していました。
しかし、グラムへは、後からTransfer出来ないことに、後になって気付きました。失敗と言えば失敗ですが、丁度、ワシントン州へのTransferに生かせるので、結果オーライでした。(それでも9単位は余計でした)

- ③ 予想外の面白さ(FAR, BEC)
税理士試験の結果が出る迄の4ヶ月を利用して、まずは、必要単位(15単位)と1科目受験を目指して始めましたが、ついつい面白くなり、2科目目迄手を出してしまいました。正直、税理士試験にかなり影響が出ました(笑)
- ④ 苦手科目(REG, AUD)
REGの商法、AUDは難しかったです。
Beckerの択一問題は、最終的に1問 1.5分で解くべき所、1回目、理解して解けるようになる迄、1問につき、15~30分も掛かってしまうものがありました。
このペースではいつ迄やっても終わらないのではと泣きそうになりました。しかし、「今やっていることは、実務では基礎の基礎。これを難しいと思って投げ出したら、とても恥ずかしいことなのは」と言い聞かせ、とにかく1回転終わらせることだけを考えました。不思議なことに、その後、2回転目、3回転目と回を重ねる毎にどんどん時間が短くなり、苦手意識を克服出来ました。
- ⑤ 試験日程の秘訣
私の場合、本試験は基本的に日曜日に設定しました。こうすることで、前日の土曜日を、丸々1日最終チェックに充てられます。得意科目のFARとBECは、上記の対応で乗り切りました。
しかし、REGとAUDは、かなり手間取り、前日の土曜日だけの対応では、合格点に達しないことが目に見えていたので、お正月休み、GWの長期休暇を活用しました。2科目とも、長期休暇の最終日等に受験日を設定し、直前集中期間を確保しました。尚、私は幸うして、全科目1回で合格することが出来ました。もし、不合格となった場合は、即座に、次のタームの出来るだけ早い日程(例:4/1)に試験日を設定し、学習内容が頭に残っている内に、2回目で、同じ科目を仕留める作戦でございました。(そうすることで、次のタームの後半に、次科目を受ける計画)
- ⑥ Expireとの闘い
折角、科目合格しても、1.5年の間に4科目の合格を揃えることが出来なければ、1.5年経過した科目から順次、合格が失効してしまいます。
私は、税理士試験の途中で、果敢(無謀)にもUSCPAにも挑んでしまったが、税理士試験の直前期に、USCPAの学習を一時中断する必要がありました。BEC、FARと順調に合格出来ましたが、途中で良いリズムを切ってしまうました。その後、また同じ勉強のリズムに戻すのに若干時間が掛かり、そうこうしている間に、6ターム中、最後の2タームで2科目合格しなければ、以前合格したBEC、FARが次々とExpireしてしまう瀬戸際に追い込まれてしまいました。精神的にも追い込まれ、泣きそうになる時がありました。運よく、最後の1タームで受かることが出来ましたが、本当に焦りました。

Q8 勉強したことが仕事に役立っていることは

- ① 仕事についての理解の深まり
営業課は、経理課から、会計士監査用資料の提出を求められることが頻繁にあります。勉強する前は、何故最近こんなに頻繁に提出を求められるのか理由が分からなかったのですが、今では、「SOX法の影響で仕方が無い。寧ろ、この作業は粉飾を防ぐ非常に重要な手続きだ」、「今回は、期中の内部統制TESTだ。営業課に対するRevenue CycleのCheckでは、適切な上長の承認等が重要チェックポイントになるはずだ」などと、会社内での仕事の意義を深堀して考えられるようになりました。
- ② 英語に対する自信
この試験は、アメリカの優秀な大学生や社会人でも落ちる試験です。英語のみの試験で、英語を母国語とするアメリカ人と同じ試験を受けても通用出来たことで、英語に対する自信が持てました。今回の経験を突破口に、英語に対する苦手意識を更に克服していきたいと思えます。
- ③ チャレンジ経験
サラリーマンでも、土日20hを使って自分に投資すれば、かなりのことが達成出来るのではと感じることが出来ました。色々なことを前向きに考えられるようになりました。

Q9 これから合格を目指す方へのアドバイス

- ① 受験者・合格率データ
2015年の全世界の受験者数は、約9万人。科目毎の平均合格率は約50%のことです。また、上記の内、海外受験者数は、約9千人(日本人はその内、約2千人)とのことです。尚、日本人の平均合格率は約33%とのことです。(英語の影響で、全体平均よりは低い合格率)
つまり、日本人にとっては、約33%の合格率の試験を、1.5年以内に4科目合格する必要があるということです。受験日は直前でも自由に設定出来、不合格になったとしても、1科目につき、1.5年以内に最高6回(各ターム1回)受けられる試験です。
- ② 参入障壁
この試験は、最初の受験手続が若干面倒なこと、不足単位を追加取得しなければならないこと、受験料がやや高額であること、東京or大阪の試験会場に少なくとも4回、足を運ばなければならないことなどが、負担になっています。
しかし、こういったことこそ、合格の参入障壁になってくれていると感じました。不謹慎な言い方ですが、上記負担を聞いて、受験自体を思い留まってくれる人が多数いるからこそ、日本人合格者がいまだそれ程多くない状況であると思えます。また、「どうせ合格出来ないのではないか」、「合格しても余り意味がないのでは」と言った試験に対する心のバリアも参入障壁になっていると感じます。
日本の受験者数が、2015年段階でまだ年間約2千人しかいないことはチャンスです。逆にラッキーと考え、すぐ手続を開始することをお奨めします。
- ③ 大前研一さんも認める資格
かの有名な大前研一さんが、その著書「サラリーマン再起動マニュアル」(2008年初版)の中で、「21世紀のビジネスマンが生き残る為に必要なスキルは、IT、語学、財務である」と定義されて久しいですが、この資格は、まさに、この3種の神器を学べる打ってつけの資格です。(ITの学習範囲は若干狭いので、その点はご了承下さい)
大前研一さんは、非常に厳しい方で、常日頃、「資格に頼るな。長期的なビジョンを持ち、問題解決力を養え」と言われている方ですが、その大前研一さんでさえ、同著の中で、「USCPAは強力なビジネスの武器になる」と述べられています。
USCPAは、それ程、ビジネスマンが求められている知識を効率的に学べ、合格した暁には、これら必須知識を有しているということを端的に証明してくれる資格であると言えます。
- ④ 会計の世界の国際運転免許
学習して思いましたが、この資格は丁度、会計の世界の運転免許のような

- 資格だと思えます。アメリカに留まらず、Licenseを取得していれば、相互認証が受けられる(国によって条件があります)。オーストラリア、カナダ、香港等でも活躍出来ますので、便利な国際運転免許です。
但し、合格した直後は、ペーパードライバーの状態であり、当たり前ですが、すぐに、膨大な監査報告書を書くようになる訳ではありません。本日に専門家として仕事をやる為には、合格後、実地で鍛えていく必要があります。
しかし、だからと言ってその価値が劣る訳ではなく、まさに、運転の為に欠かせない免許のようなものだと思います。
しかも、学習内容が基礎的なものだからこそ、役に立つ内容が豊富で、無駄にならない世界共通の話題が盛り沢山となっています。英語、会計、ITという世界共通のコミュニケーションツールを学べる資格です。
- ⑤ サラリーマンにとっても有効な資格
繰り返しになりますが、この試験は、広範な基礎知識を一通り学べる資格であり、英語の勉強にもなりますので、一般企業で働くサラリーマンにとっても、大変、チャレンジしがいがある資格だと思います。経理部門に限らず、人事、営業、資材など、あらゆる職種の方が、知っていて損の無い内容を勉強するものだと思います。
英語と会計を自分の強みにしたいという方にとっては、やらない理由が見当たらないようにさえ感じる非常に素晴らしい挑戦目標です。
- ⑥ 合格点の取り方
USCPAは、99点満点中75点で合格です。問題集で90%の正答率を出せるようにしておけば、以下のような形で合格点が取れます。
択一問題: 出題率50% × 正解率80~90% = 40~45%
SIM問題: 出題率50% × 正解率60~70% = 30~35%
合計 : 75%
※SIM問題(択一ではなく数字の記入等も有る問題)は、水モノです。どんな問題が出るか運も有りますし、文章が多いので、日本人には辛い内容です。
択一問題で点数を稼いでおく必要が有ります。
- ⑦ 点数上乘せについて
実際の正答率と点数(スコア)には違いが有ります。その時の受験者の出来に応じて、ゲタを履かせて貰える模様です。
私の場合、全科目とも75%ぎりぎりの正解率と予想しており、結果が出る迄、毎回非常に冷や冷やしていましたが、実際の点数は、かなり上乘せされ、合格点からは余裕が有りました。問題演習で90%の正答率を出せるようにしておけば、合格出来るチャンスは十分高い試験です。
- ⑧ 陸上の4種競技と思って楽しむ
1.5年の制限時間内に、科目毎に内容が全く違う4科目を受験していくということで、陸上の4種競技に似ているなど思いながら勉強していました。試技出来る回数は、各科目最大6回です。陸上で心臓をバクバクさせてから本場に走るよりは、クーラーの利いた部屋で4択クイズを解いている方が楽だと思って取り組んでいました。
是非、これから受験される方は、自己ベストタイムを出すつもりで、出来れば、1ターム1科目ずつトライし、4ターム目で余裕を持って終わらせてしまいう位のつもりで取り組んで頂ければと思います。
陸上競技でなければ、昔のテレビ番組にあったアメリカ横断ウルトラクイズにチャレンジするような気持ちで、是非楽しんでトライして頂きたいです。
- ⑨ 2011年から日本受験が可能になりチャンス拡大
かつては、アメリカ本土やハワイに行かなければ受験出来ませんでした。2011年から日本受験が可能になりました。ご存知の方も多いと思います。
以前は、渡航費を節約する為、複数科目を同時受験される方も多かったことと。しかし、日本受験が可能になったことにより、この負担が無くなりました。取得費用が大幅に下がり、1科目ずつ受験出来、試験直前まで落ち着いて勉強時間を確保出来るようになりました。取得が本場に現実的であったのは、2011年以降、ご5、6年のことと。幾つもの学校が、広告に力を入れ出したのも、この為かも知れません(笑)
- ⑩ 不安な方へ(客観的な勉強時間で判断)
私も受講前は、「USCPAも良いけど、いざ何十万円の受講料を払って、1年努力したあげく、結局合格出来なかったら、心の傷と無駄な出費が残らないのでは」という思いが有りました。その為、USCPAのことは、10年以上前から名前だけは聞いたことが有りましたが、それ以上、具体的な行動を起こすことは有りませんでした。(将来、もっと仕事に余裕が出来て、もっと自分の気が向いた時に頑張ろうと思っていました)
終わってからの感想ですが、過度に恐れなくても良かったのかも知れませんが、必要な勉強時間というのは、客観的な指標になります。
私の場合、1年4ヶ月で1,170hでした。簿記の学習経験が有りましたので、若干短い方だと思います。ネットの記事を見ますと、1,000h~2,000hの間であったという人が多数いらっしゃいます。簿記2級を取得されておられ、TOEIC600~700点前後の方であれば、平均1,500hというのが標準的なのではないかと思います。
この時間を、1.5年以内に押し込めることが出来る方は、合格の確率がかなり高いのではと思います。1年に1回しか受験出来ない日本の国家資格と比べれば、非常にフレキシブルです。
- ⑪ それでも不安な方へ(単位取得を当面の目標に)
それでもまだ不安で躊躇するという方には、単位取得だけを完了させてしまおうをお奨めします。
尚、単位取得には講座を受講する必要がありますが、一度講座を受講すれば、その後5年間は、格安で再受講が出来ます。
大学の単位は一度取れば消えないので、必要単位だけをまず取得し、本試験を受けるタイミングは、将来の自分に託すというののも良いかも知れません。(又は、1科目目のNTS(受験ID)の取得迄を区切りとするのも良いかも知れません)
こうしておけば、いつでも気が向いた時に本試験を受けられますので、もしかすると、将来の自分は、早く受けたくてしょうがなくなってくれるかも知れません。
- ⑫ アメリカの制度の有効活用
この資格は、科目合格率の平均が、約50%であることから考えても、「取らせる」為の資格と言えます。落とすことが目的の試験ではありません。
また、アメリカ国外の外国人にも広く受験の門戸を開いているのは、もしかすると、我々が、アメリカ標準を世界標準として頒布する為の役割を担わされているからかも知れません。それはそれで良いと思えます。アメリカの思惑に乗っかり、逆に自分のスキルアップに利用してやる位の気持ちで良いと思えます。
皆さまが、ご自分の為に、楽しい山登りに一歩踏み出されることを、応援しております。